

尾張志

神社

日置神社

日置橋町の坐すくはしくはしくの名古屋の部に記す併せ見るべし

上知我麻神社

熱田市場町にまします熱田の部にくはしくいへり

下知我麻神社

熱田はたや町に坐すくはしく熱田の部にるせり

熱田皇大神宮

熱田にまします熱田の部にくはしく載せたり

御田神社

熱田皇大神宮境内に坐すくはしく熱田の部にるせり





高牟神社

古井村にまゝて今の八幡宮と申す社説に祭神の高皇産靈尊にて成務天皇の御代の鎮坐其後清和天皇の御代勅詔によりて應神天皇を配享し奉れりといへりされば八幡の号あるもさる事也延喜神名式に愛智郡高牟神社本國帳尾張國神名帳をいふ下皆同しに愛智郡從三位高牟天神と見えたるも即當社なる趣に参考本國帳集説及府志等にいへりされども此社号の高牟といふ二字の訓も決めがたく又國帳の高牟久とかけらる高向歟さらは地名又姓カハキにありされと高向ことの古名とおほしき證見えす又姓ならむにのみな其姓祖神とまつる例なるに社説の高皇産靈尊にてハ氏神にりなはずかた〜おほつかなきにつきてよく〜思ひめぐらすに高牟の二字は決して誤字ならむと考たる説ともありて其よし別記にく〜いへりとも〜高皇産靈尊は天地の初發の時に高天原に生出坐ナリイラマシて萬の事も物もこと〜に幸へなきとめ給へる産日の御靈にていともいとも奇しく尊く殊に崇敬奉るべき御神也さて當社は寛永十一年に山下大和氏勝神殿修造ありしが荒廢に及へりして元祿十二年命有て御修理ありき其以後御修造料金絶へす賜る例也當社藏に大般若經あり府志に五十卷ありといへれと今繼に残れり武藏坊辨慶寄附したる由いひ傳へたり攝社に神明社

白山社 天神社あり神主と小島和泉と云

川原神社

川名村に坐今の神明と申す社説に埴山媛命を祭るといへり延喜神名式に愛智郡川原神社本國帳に同郡從三位川原天神一本に河原とすとある是なり此社地の東より北の方に屬る地は上古は大河なりけむ形勢見えて田地殊に卑く今も名を川原といへり其大河のあせて残れるならむとおほしきを今は川名川といふこれ石川といふなる川上なり 當社はその河原といふ處に屬たれば川原といふ地名混ふへからぬ神社也社号は地名の川原なるに村名を川名といふ事ハ延喜式鎮火祭祝詞に神伊佐奈伎伊佐奈美乃命妹背二柱嫁繼給氏國能八十國嶋能八十島平生給比八百萬神等平生給比氏麻奈弟子爾火結神生給氏美保止被燒氏石隱坐氏云々吾名妹命能所知食上津國爾心惡子平生置氏來奴止宜氏返坐氏更生子水神匏川菜埴山姫四種物平生給比此能心惡子乃心荒比會波水神匏埴山姫川菜乎持氏鎮奉禮止事教悟給支云々と見えたる此川菜より出たるなるへく埴山姫命と祭るといふ社説もこゝによしありて聞ゆる傳なりかと攝社に辨才天社あり神主を内藤歡之助と云



針名神社

平針村にまして今は天神社と申す神名式に愛智郡針名神社本國帳に同郡從三位針名天神とある是なり祭神は尾治針名連と神祇寶典に書せ給へるがごとし針名連は天孫本紀に天火明命十四世孫尾治弟彦連次尾治針名根連次意乎已連此連大雀朝御世爲大臣供奉と見え姓氏錄左京神別下檜前舍人連の條に火明命十四世孫波利那乃連公の後也とも見え尻調根命の二男也神名式に備前國御野郡尾治針名眞若比女神社といふある眞若比女命天孫本紀尾治氏世系をかける條にはもらせれとこの針名連公の御妹か又の御女なともやあらむさて針名はもとの尾張國の地名にてそこによれる御名なるへと今は此名廢れて考ふべきよなり延喜神名式に見えたる上野國群馬郡榛名神社に同例の地名ながら祭神は此處と異なるにかあらむ此平針村今の民家及神社寺院ともにもとは郷の北の方元郷といふ處にありとを後にこゝにうつしたれば古代よりの坐地にあらす舊址の今世に元天神と呼來れり神主と村瀬右近と云

伊副神社

當社の今坐地當郡ならず考ありて別記にいへり

成海神社

鳴海驛に坐て東宮明神と稱す社説に日本武尊を祭る天武天皇朱鳥元年六月鎮坐也と云神名式に愛智郡成海神社本國帳に同郡從三位成海天神たにし元鎮本正二位上とし貞治明應本共に從三位上とし一古本に從三位とし集説とある是なり當社もとは今御旅所なる天神山といふ地にありとを應永の頃今の地に移せり社領もくと和合村傍爾本村相原村に若干ありと足利殿義政將軍の御代長祿の頃収公せられりといへり其頃は社人も三十餘家ありとを又東宮日月歩と五字かける古額ありて神主家にとさむ是小野朝臣道風の筆也といふ又神鏡八面あり是は當所根古屋城主安原備中守が侍女より寄附したる也弘治三年十二月元龜元年九月天正十七年五月等書る寄附狀もあり攝社に熊野社 稻荷社 神明社 風神社 天王社 愛宕社 白山社 八劍社 源太夫社 多賀社 御井社 道祖神社 住吉社 寶田社 大福田社 氷上社 日前社 子安神社 八幡社 御鋏社あり神主と牧野播磨と云

物部神社



古井村にまして石神堂と稱す大なる石と神靈と崇祭る故にこの号あり延喜神名式に愛智郡物部神社本國帳に同郡從三位物部天神とある是也とそ扱物部といふ舊はモノ、フベといふ意モノ、フとの武勇職を以て仕奉勇士の通稱にて部とは其群を總呼名也かくて姓名とも地名ともなれり此處は地名にて和名抄に愛智郡物部と見えたる郷なりされども彼抄に載られたるはいとふるき郷なる故に既その名廢れて今の世に存らぬたぐひ諸國にいと多あり此處も其定也また物部氏の神饒速日命の後にて其類族甚多一精しくは姓氏錄及天孫本紀と見て知べし

但し尾張國なる物部氏人は續日本後紀に承和十三年十二月戊申朔甲午尾張國山田郡人内藤少屬正六位上物部宮守改本居貫左京六條四坊と見え文德天皇實祿に齊衡三年九月癸卯大僧都傳燈大律師位實敏卒俗姓物部氏尾張國愛智郡人見え三代實錄に貞觀二年五月廿三日壬申尾張國人從六位上笛吹部高繼復本姓物部屋形など見ゆこのうち實敏は此地本居の物部氏人なるへく又其氏神常社なる事疑なし社説に宇摩志麻治命を祭るよしいへるもさる事也宇摩志麻治命は饒速日命の御子にて諸國にある物部氏の祖神にまします事いふもさる也

- 日割御子神社 熱田八劍の神社の東方にまします 孫若御子神社 同大宮鎮皇門の内に入ります 熱田の部にいへり
- 高座結御子神社 同はたや町にまします 八劍神社 同大宮の南に入ります 熱田の部にいへり
- 火上姉子神社 知多郡大高村に坐す 青衾神社 熱田堀の内に入ります 熱田の部にいへり

以上十七坐は延喜式内の官社にて並愛智郡に載たり

石作神社

岩作村にまして今の神明と申す延喜神名式に山田郡石作神社本國帳に同郡從三位石作天神とある是也和名抄に山田郡石作とある郷も此村也今この愛智郡に屬す社説に建麻利尼命と祭るといふこの命は天孫本紀火明命六世孫建田背命の條に次建麻利尼命 石作連桑内連 と見えまた姓氏錄左京神別下に石作連 火明命六世孫建真利根命 皇后日葉酢媛命 石作石棺 之後也垂仁天皇御世奉爲 獻之仍賜姓石作大連公也 などあり尾張氏の別氏なるゆゑに本國に此氏人殊に多かり

いとおほくして石作といふ地名も和名抄に中島郡と此處と一處見え又中島葉柴丹羽山田四郡に石作神社ありて神名式にのせられり當社は仁明天皇の大御代承和元年甲寅年鎮坐にて後花園天皇正和年中にも御修造ありりよ社記に見えたり攝社に一御前社 白山社 熱田社 妻宮社あり神主と福岡氏と云

山口神社 山口村にまして今ハ八幡と申す延喜神名式に山田郡山口神社 今本山を本國帳に山田



郡從三位山口、天神とある是なり郷の和名抄に山田郡山口とあり今當郡につけり社説に應神天皇を祭るといふは八幡と稱せるより出たるなるへし攝社に天王社あり社人と丹羽喜太夫と云

以上二社は延喜式内山田郡の官社なるが今の當郡に屬り

稻木神社

八事村にまして天道宮と稱す延喜神名式に丹羽郡稻木神社本國帳に丹羽郡從三位稻木天神とある是也此神社のもと丹羽郡寄木村にましく一と寛保元年こゝに遷坐し奉れり舊址にも猶同神の社殿あるゆゑに其處に精しく論辨せり合せ見るべし

以上二十社の並神祇官に坐し延喜神名式に見えたる官社也

素盞雄名神社

坐地詳に知かたといへとも考説あるゆゑよくはしく別記にいへり本國帳愛智郡從一位素盞雄名神 是は貞治本に據れり明應本從一位素盞雄明神とし元龜本正二位上須佐雄名神と記しある古本に從二位素盞鳥明神とある是なり

今彦名神社

熱田大宮の境内に坐熱田の部にいへり

乙子名神社

上にお

水上名神社 あつたにまします熱田の部に配せり

日長名神社

知多郡森村に坐をこれ熱田の部にいへり

水向天神社

熱田神宮海藏門の外にまします熱田の部にくはしく記す

墓田天神社

本井戸田村に坐て今の若宮八幡と稱す本國帳に愛智郡從三位津賀田天神 元龜本に墓田とす貞治本に墓を葬に とある是也此社地を俗に長森といふの松樹つゞきて長けれの也むかし頼朝將軍此村のうち片垂といふ地にて誕生し給ひ此村なる龜井を産湯としこの社を本居神とし給へるよし社説にいへりされとも彼卿の母は熱田大宮司藤原季範女にて久安三年四月八日熱田はたや村にうまれ給へり故に頼朝の童名を幡屋の武者王といひけるよしある書に見えて熱田誓願尼寺即誕生の舊地なるよしいへる傳へあるもさるべくおほゆればいつれとも決めかたし墓田といふこの本井戸田北井戸田二郷のうち殊に古塚多かるより出たる地名なるへし當社の今の社説に祭神を仁徳天皇なりといふの若宮八幡と呼るより出たる説にてよりかたし其故のこの社舊の若宮とのといひなれて八幡の号のなかりしと若宮の号あるにつきて八幡の号を副たる事明らかし若宮八幡と申へ八幡にて其若宮とさしていふ唱へなるが世に普く廣くなれる也すへて若宮と申す名の其本社の御子神をさせる例なれし稱へひとくても其社毎に祭



神の異なるならひなるとやさて此社と若宮といふ事は何れの神の若宮に坐にか知か  
按に今熱田大宮の内に坐す孫若御子神社の本所は今名古屋なる若宮八幡社ならむかと考たる説を  
た一 條に辨へ置つれどもしく此處の若宮それならむも知かたし上古に明らかならむ人よく考へた  
して

又此社に古寫の大般若經六百卷と唐櫃にとさめて傳來す是は後光嚴天皇の大御  
代應安元年戊申十一月晦日事はかりはトめて同二年己酉正月十一日に筆ととりはト  
め同七年甲寅十一月六日供養したるなり總計六百卷のうち奥書したる卷百十七卷あ  
りて元弘觀應應安永徳至徳明應寛正等の年号と書りたゞ元弘觀應の二卷ハ此應安  
年中より以前の寫卷にて五百年以上の古物古雅なるもの也又この奥書にある員數の  
うち元暦文治建久正治などの年号ある分十七卷あり是は皆後人の加筆にて墨色こと  
なり心して見るへし又此奥書ある卷の内に井戸田郷若宮とかける二十二卷あれども  
八幡と書たるひとつもなきを以て八幡の社号なき證とすへし攝社に入劔社 源太夫  
社 富士社 白山社 神明社 諏訪社 田神社 稻荷社 田の神いなり  
二神相殿なり 熊野神 山神  
この二神ハ社廢れて  
石をもて御靈とす あり社人を龜井忠太夫と云

油江天神社

上中村にまして今の油の天神と稱す本國帳に愛智郡從一位油江天神 元龜本正四位とし  
明應本從三位とし  
し貞治本從一位とし  
一古本に從三位とす である是也油江はこの地名なれども今は廢れて此社号にのみ残れ  
り當社に寛永八年五月廿五日かける棟札ありそれに南無天滿大自在天神之御社とあ  
りかの本國帳に某天神と書るは神階によりて名神天神地神と差別ある三等の名目な  
る事とも辨へず天神といへは皆菅神とこころ得あやまりて式内帳内の官社と菅家  
とあてたる類國中甚多しよく考へわくへき也此棟札と見てゆくりなく菅天神に思ひ  
あやまる事なれかこれ今世にさたする祭神と云もの故縁ありけにきこゆるハ  
却て近世の好事の人の考へ充たる新説にて信かたく式内帳内の明證ともなるべき社  
記棟札などもたえてなきよもあらねは近世のさかいらともすれば相交りて實に正  
しと見ゆるたぐひいといとくまれ也

萱津天神廢址

今の海東郡につきたる下萱津村にあり海東郡神社の部にいへり

泥江縣天神社

名古屋八幡町に坐す名古屋の部にいへり



以上九社廢址一所のみを本國帳内の官社なり

式外帳外之諸社

八幡社

御器所村にあり社説に祭神は譽田天皇にて内陣に天照大御神高藏神八劍神熊野神比叡山王神五坐と配享といへり今はかく八幡の号あれと舊に八所大明神といへり見え嘉吉元年辛酉十一月十六日とある棟札に奉造立尾張國愛智郡御器所八所大明神日那佐久間美作守上藤同舍盛之上藤永相云々とあるとはじめにて永祿七年十二月慶長五年十一月などにも皆八所大明神と記せりさると萬治二年十一月りける札にはじめて八幡宮とあり扱此棟札ともに見えたる當社修造の大旦那喜吉元年に佐久間美作守上藤同舍盛之上藤永相永祿七年に佐久間美作守家勝同右衛門尉信盛余語久兵衛勝盛慶長五年に大島雲八郎源光吉又小旦那には岡島太郎八吉久余語六右衛門勝秀寛永五年に矢崎左京源利正等也是村の本居神なり攝社に白山社<sup>二</sup> 富士社 淺間

社 天神社 稻荷社あり社人と安藤與三太夫と云神宮寺あり醫王山と云 境内東の方にあり紀州高野

山蓮花谷誓願院に屬り真言宗にて當社の供僧也嘉吉元年當村の城主佐久間美作守創建す本尊藥師佛なり慶長五年大島雲八郎再興す又庚申堂一字あり青面金剛脇侍二軀の木佛を安置せり

縣社 八幡社より西の方にあり 八王子神を祭るといへり 天神社 祭神詳ならず 氷上社 白山社 祭神須原神也といふ 八幡社

此地古墳の形勢なり祭神定かならず 春日社 祭神天兒屋根命也といふこの境内に天神稻荷相殿の社あり 村神社 祭神定かならず

以上同く御器所村にあり

八劍社 熱田社 此處を移の森といふ也 一御前社 八幡社 神之内といふ處にあり 富士社 鐵炮杖といふところあり

八幡社

以上高田村にあり此六社は永祿七甲子年當村城主村瀨淨心勸請せし由元祿七年甲戌五月の棟札にあり

八幡社 西の島といふ所にあり此地の本居神なり本社の南方に行者堂一字あり 白山社 東の島といふ所にありこの本居神なり菊理媛命を祭る 秋葉社

西島のう ちにあり 山神社廢址 中島といふ所にあり 山神社廢址 館屋といふ處にあり

以上本願寺むらにあり



八幡社 田子といふ處にあり 村神社 白山社

以上大喜むらにあり

神明社

本井戸田村にあり濱の神明といふ

熊野三所社

山崎村にあり伊弉諾尊伊弉册尊と祭るといふ本社の東西に脇宮といふ社二社あり速玉之男神神事解之男神を祭るこれと總て熊野三社といふ境内に末社いかりの社あり社人を宇津野相摸と云

八王子社 名古といふ處にあり 八幡社 富士社 廢址

ならひに同村にあり

天王社

戸部村にあり素盞烏尊と祭る當社もとは此處より西の方にありしと慶長十一年忠吉君の命によりて此處にうつし奉れり扱正殿廻廊幣殿拜殿等あたらしくうるはしく御造進ましくき是ハ先に御病まゝせるとき此神に祈禱給へりと靈驗いちどるかり

と御かしこまりとを聞えたるかくて種々のぬさしもの獻らせ給ひ社領百石を寄附させ給ひぬしかりてよりこのりと御代々かはる事なし此年六月十二日はじめて祭禮とおこなひしより今も猶車樂あり神主を金原大藏と云又境内の東の方に宮寺あり海南山天福寺といふ 真言宗にて當社の供僧也慶長十一年忠吉君の御創建なり

白山社 子持山といふ所にあり 八幡社

ならひに同むらにあり

神明社 西之切の本居神也 八劔社 東の切の本居神也境内の攝社にいなりの社あり 石神社 山神社 廢址

以上新屋敷村にあり

神明社 熊野社 迎山といふ處にあり 八幡社 大地欠といふ地にあり 神明社 田中にあり

以上さくらむらにあり

七所社

笠寺村にあり熱田七社神とまつる天慶四年戊戌勸請すと社説に云り攝社に稻荷社天王社 神明社 子安社 秋葉社あり社人を伊神右衛門と云



秋葉社 鳥居山にあり

新宮天王社

素盞鳥尊を祭る承平三年に勧請すといへり社人を森左門と云

二社とも同むらにあり

星宮社

本地村にあり天津彗星神を祭るよし府志に見ゆ社説に舒明天皇九年七星天降けるに神託ありて往古千竈の郷なる此處に初めて社を建て齋奉れりといへりこはあやしげに聞ゆる説なれども此舒明天皇の九年にかけていへるは傳混たるならむとおもはるゝ故あり下にいふべしまつ星を祭る事は上古の御代には決てなかりつれと漢風とよろつに交へ用ひらるゝ御代となりてより以來は北辰の祭などいふ事もやゝ古くよりいできて妙見などいふ神号さへものに見ゆる様になれゝは舒明天皇の大御代頃にこそあらざらめやゝ古き年頃より祭初たる星社なるべし又此星社あるによりておこれる星崎の地名ならむには星崎とよめる歌の堀河天皇初度の百首に見えたるにても其時代は大概おしはからるゝ也

上知我麻社

星宮の同地星のやしろの北の方にあり乎止與命を祭る

下知我麻社

同所にあり伊奈突智老翁眞敷刀咩命を祭るよし社説にいへり扱この上知我麻下知我麻といふ二社の星の宮より以前にこゝに鎮坐したまへる地主神にて伊奈突智老翁は此處にてはじめて鹽竈を作り海潮を焼て塩つくる事を教へたる人を稱たる神名也といへりこゝかの神代紀に見えたる墟土老翁なるへきと此處に伊奈突智といへるはいかなるにかあらむこの神号はいと古體の稱名にて中世以後の唱とは聞えず又此上下知我麻の二社の号は延喜神名式に載て今は熱田なる源太夫神紀太夫神といふ社なるよゝに熱田社の鎮坐本紀に見えたるによりて然おもへるを今よく考ふれば此社を舊地の本所なるへし そのよし和名抄愛智郡の郷名に中村千竈今千竈を電に誤る神名式に知我麻とある是也 大毛物部厚田作良成海神戶とある中に千竈といふ本地村をはじめにて戸部山崎笠寺南野牛毛荒井七村を總いふ郷名也されは此七村の内上下と二所にわかれて上知我麻社下知我麻社の坐地往古ありしなるへし上知我麻社は乎止與命を祭り下知我麻社は乎止與命の御妻尾張眞敷刀咩命を祭れは熱田神宮につきてはなみくならぬ故縁ある御社ゆゑ上古の彼大宮に屬居給へる攝社の列にもやありけむされいこそ承平年中將門追伐の御祈禱すどて熱田神輿を此處に出ませ奉りけるならめさて此いくはくも年を経ずして今の如く二社とも熱田なる市場と旗屋に遷坐し奉れるならむかゝる遷坐の次第のまぎれによりて上下の坐地もなべての例にたがひて上に坐を下知我麻下に坐を上知我麻といふ様になれるならむか又此處の二社は東の方に坐を上知我麻といひて縦三尺横三尺五寸社西



方に坐を下知我麻といひて縦二尺七寸横三尺三寸社にてとも南面に坐りて遷坐し給へる舊址に猶いさ  
 けき社なからも古代の社號をたがへず建祭れる御社はなるへし遷して祭奉れる熱田ゆゑにか知我麻とい  
 ふ社號はふるくより聞えず源太夫神紀太夫神といふ名のみや古くよりものにも見えて世に名高く傳は  
 れるにこゝにはかの神名式のまゝなる古社號の今に存れるはさすがに千竈といふ舊地知我麻神社の本所の  
 遺址なる明燈ともいふへくめでたき社號也また星社の鎮坐を符明天皇九年のよし社説にいへるは此知我麻  
 社の事ならむを彼此混合せしなるへし知我麻二社は星の社なりし已前當處に鎮坐したまひて地主神と往古よりいひ傳へたるか  
 よしも社説にいへり此説を熱田の源太夫神に受繼て市場の地主神のよしいひ傳へたりか  
 くて上にいへることく千竈といふは此本地村を本基にて此星崎七村の總名知我麻は和名抄に千竈とかける文字の意に  
 なるへし故の名なるをむかしよりわさらめ知れる人もなかりつとかはしくて千竈といふ郷名の在所及熱田地の其中  
 しに此編集の事に關りあまねく村里を見巡りありきて其地に至り聞たりし見明らかめ得たるおもふまをいさ  
 か懸説を交へてくたく攝社に神明社天王 靈社 稻荷社秋葉 秋葉社 金毘羅社 社宮  
 司社 星宮別所大道堤といふ處にあり あり社人と村上但馬と云

喚續神明社

南野むらにあり國常立尊天照大御神瓊々杵尊三坐を祭るといへり攝社に壇竈社  
 天王社 住吉社 軻遇突智社 大國玉社あり社人を村賴兵部と云

辨才天社

二社とも同村にあり

天王社

牛毛むらにあり

若宮八幡社

荒井村にあり社人と青山出雲と云

天王社

源兵衛新田むらにあり

寶生社

寶生新田にあり

山神社

二社とも川名村にあり

白山社

石佛村にあり菊理媛命をまつるといへり

境内に觀音堂及石地藏あり堂内に長五尺余の石像の千手觀音を安置すこれ此村の号の本基之傍に寺ありて慈

雲山善昌寺といふむかしはいみじき伽藍の靈場なりしが亂世の放火にかゝりて悉灰燼となり唯其礎の巨石  
 或は布目の古瓦などのみ境地に散在したりしを天正二年甲戌冬の頃領主某大厦造營の事ありて此處の大石  
 とも運ばしめらるゝ内に一巨石の地より生たる如きを掘得むとすれどもかつて動ざれば石工鎚をもて擊

若宮八幡社

川原神社の西南にあり仁徳天皇を祭るといへり



たりしかは石より光を放ち忽目くらみ悶絶して倒伏ぬ有司等をはしめ見るもの恐怯て石靈の恐をしるか  
くて此石工茫然として家に歸り遂に剃髮して慈雲と名付此石佛の傍に座をしめてわけくれ行ひ居り年頃を  
ふるまゝに遠近の村民來集りて諸願を祈るに皆靈驗を得たりと此寺の縁起にいへり按にこは上古に故縁あ  
る神體石などにもやありけんかく靈異の嚴なるは多く古社地にあり佛體に彫れるはや、後の事成へし

兒社 山神社  
同むらにあり

神明社 天照大御神を祭る末社に八幡の社  
春日社あり社人を水野清膳と云 山神社

二社とも丸山村にあり

八幡社

伊勝村にあり應神天皇を祭る喜吉元年當社と御器所村に移して祭れるよし社説にい  
へり扱は其遺址の神也此社に陶器の伯犬ありうらの銘に應永廿五戊戌歲十二月朔日  
熊野願主淨蓮とあり境内の末社 白山社 熊野社あり社人と坂尾右近と云

八幡社

末森村にあり應神天皇を祭る當村の本居神とす永録年中に天野伊豆守重次修造すと  
いへり社人と松永東太夫と云

白山社

同村八幡社より未申の方古城址の北に屬てあり菊理媛命を祭る當社創建の願主は當  
城主織田勘十郎 信勝にて天文二十二年癸丑五月三日に勸請あり此處の八幡  
社人東永政陳か家に當社御正體の古臺坐一牧あり其裏書に勸請の年月日及執事の  
姓名等くはしく見えたる文句と古城部に書せり併せ見るへし

此御正體は往年盜人ぬすみ  
て持去といへり因に云尾渡  
葉栗見聞集といふものに天文の頃諸國一統に神跡を盜とりて社頭を鎮坐する事流行す其比の事にや濃州徳  
田の八幡の神跡を河島へ盜とりて鎮坐して今に至りて徳田の八幡といふ其砌徳田村の人八幡宮奪返さむとて  
四方を尋て知れざるあまりに河島の内にて藥師の像を盜來て堂を建て今に至りて徳田、氏神の境地にあり云  
々また丹羽郡佐野町屋村の八幡社はいにしへ靈驗あらたなりしゆゑに此神跡を信州善光寺海道へ盜とりて  
今に至りて町屋八幡といふ宮ありといへり云々此社の盜人もかゝる類にかありけむ

淺間社 八幡社より東南山頂にあり 一、御前社 八幡社より東南の方  
木花開耶姫命を祭るといへり にあり祭神知られず 山神社 宇賀神を  
祭れり

この三社も同村にあり 貴布禰社 高麗神を祭る當  
村の本居神とす 富士社 木花開耶姫命  
を祭るといへり 山神社 貴布禰、やしろより成の方  
にあり大山祇命をまつれり

山神社 貴布禰社より末の方  
にあり祭神上に同し 山神社 貴布禰、やしろより成の方  
にあり大山祇命をまつれり

この四社とも下社村にあり 山王社 貴布禰社 山神社



この三社ともに上社村にあり

貴船社 山神社 富士社

三社ともに一色むらにあり

八劍社

猪子石村にあり日本武尊を祭るといへり

境内に観音堂一字あり十一面観音を安置す此社地を蓬菜洞といひ観音堂を蓬菜山と呼也堂内に慶長年中に書る繪馬二枚あり又此社藏に天文年間の鐘盤慶長中の鐵の闌筒あり修驗密殿院これを掌る

神明明社 天照大御神靈受大神を祭る境内に鐵神あり當村の本居神也

山神社 此地名を東

山神社 神明社より東の方にあり

この三社も同村にあり

神明相殿社

藤森村にあり國常立尊菊理媛命を祀るといへり白山社は永享元年創建のよし府志

にいひて社明相殿のよし見えず扱ひ舊此地白山神のみなりしを府志撰述の後今のことと相殿としたる成へ社説に上古は今の社地より二十間ばかり西の方なる低地にありしを後此所にうつし由いへり其年月は知られずとをさて其舊址に古松枯朽てたてり其處とオチヲ又ワチヲ或はウニヲ又リニヲなといひ其處より

小坂を下りて南の方にいへる御手洗といひ傳へたる處に杉の枯木残りたるあたりの地田字を杉前と呼よしも社説にいへり境内の末社に猿投社あり この尾張志編纂の事にあすかり

て去天保七年四月おのれ中尾此村に至りて當社の事蹟を問あきらめむとしける時當社の社人春日井郡新居村谷口久米足利和爾良神社考と表書したるものを持來りて見せたり其文に曰延喜神名式に尾張國山田郡の部に和爾良神社ありそは今にては何處の社とも詳ならずなりたるを己が仕まつる山田莊藤森村今今津の産土神の社相殿白山の西なる低き地に松の枯朽たるが一本立るを里俗宇禰良和爾良宇爾良また於禰良などいひ傳へたり先年度の頃雨ふらざりしほどに郷民等募集ひて雨を祈けるにしろりと其處は今氏神の社の往昔の宮地なりしを後不詳に今の地に遷奉りしといひ傳へたり其地より坂を直に下りて南の田の邊に朽たる木一本あり郷の老人の云けるは此處に己等が幼き頃までは大きな杉の木三本迄ありしをある年の秋甚しき風吹ける時に皆倒れしが其中一本の日を経て元の如く立り今の朽木は是也とを其本には小竹など生ひ茂れり其處を御手洗と呼傳へたり其邊の南なる田の字を杉前といへりむかしは杉の猶大きなが並立りしならむさておのれ考ふるに今の産土神の社はいにしへの和爾良神社ならむを他處にうつし奉りてかいつしか御名の其跡處にのみ残りたりしならむ其を後に土俗和爾良を詠りて和爾良宇禰良及於禰良など呼傳へしならむかさてかの杉前といふ地の西の方に地藏堂とてあり堂のうちに石にて彫刻れる地藏の像二軀立り其を里俗夫婦地藏と云傳たるをかしきおもふに是は往昔の和爾良神社の相殿神國常立命の御像にてありしならむ又所謂本地堂にてもあらむか今にても此産土神の祭祀の日毎年九月に御前にてかの地藏にも御饌を備へ御湯をさぐる事などのあるは此社に屬て所縁あるわかし也けり猶よく考まはしくことを云り此考記よしありげに聞えて然る事にやともうなつかれるれよく按に和爾良といふ語ハ舊ハ姓より出たる神号の類にてなべての地名の例にはいひかたたく地名と遷るへくもおぼえす古に明ならむ人よく辨へたとしてよ



とたるは中世以後のみしく誤れる社既にて據にたらず本堂にてもあらむと  
とるはさること也此社にしへハ大社に坐むが渡へ給へるはあらしき事也

富士社 氏神、社より北の方にあり  
山神社 氏神、社より南の方にあり  
天道社 氏神、社より西の方にあり  
山神社 氏神、社より

この四社も同むらにあり

明神社

長久手村にあり景行天皇を祭るよ一社説にいへり府志にも然見えたれば古へよりの  
傳へなるべけれどいとめづらかなる祭神也 此社の左の方に神明社右の方に白山社と總て三社  
ならひ立り古へより三社、宮とも呼ならへり當社は

承和四年鎮坐のよし傳へいへり往古は根神といふ地にありしをいつばかりにかわりけむ大久手といふ地に  
移し其後又コウロギと呼地に遷し奉り根ノカミ大ケテコウロ 其後慶長九年甲辰二月今の地に遷坐し奉れりと長  
久手合戦記に堀久太郎三社の森の前に備立したるよし見えたるは當社のかの コウロギにありける時也さて  
永享九年己八月藤原左近太郎家忠左衛門、次郎國守沙彌善洞左衛門、太郎國包等修造し享祿三年寅六月沙彌  
慶祝齋藤平左衛門尉同民部返牧彌九郎など造營し弘治二年辰二月齋藤源五郎永祿九年寅九月加藤太郎右衛  
門修造せりかの神名式に見えたる山田、郡和爾長、神社を近世より當社なる様にいひ出たる社説もあるを尙  
行記にも載たれと藤森村白山社よりも猶おはつかなし社人を青山助太夫と云

熊野社 當社もと大久手といふ處の社池の邊にありしを永祿九年九月今の處に遷す  
金社 山神社 三 富士社 先達島にあり社人  
を春山重太夫と云  
ならひに同むらにあり

富士社

岩作村にあり文祿年中に淺井助左衛門創建すといへり末社に伊豆社 熊野社 白山  
社 伊熱社 日吉社 鹿島社 三島社 箱根社あり

山神社 二 妻社、舊址 八幡社

四社とも同村にあり

八幡社 仲哀天皇應神天皇神功皇  
后玉依姬、命を祭れり  
山神社 二 社宮司、社、廢址

この四社本地村にあり

十二所、社 當社を村の  
氏神とす  
白山社 氏神より北  
の方にあり  
神明社 氏神より己  
の方にあり  
山神社 三 柳社

辨才天、社

この八社菱野村にあり

多度社 神明社 境内の末社に  
鉾、神、社あり  
八劍社、廢址 ミロクとい  
ふ處にあり  
富士社 富士、嶺  
にあり  
山神社

山神社、廢址 三

以上並山口村にあり



八幡 熊野 相殿社 山神社

並大草村にあり

神明社 末社に八王子社八幡社白山社 兒御前社等あり村の氏神也

山神社 氏神より亥の方

シヤグジノ社 廢址 氏神より戌の方

以上北熊村にあり

多度社 天津彦根尊を祭る末社に 神明社山神社あり氏神也

八劔社 山神社 以上二社氏神より 東南の方にあり

諏訪社 氏神より南の方にあり

天王社 天申山前熊寺 社の事を掌る

以上前熊村にあり

白山社 神明社 山神社 三所

富士社 辨才天社 いなりの社 文珠社

この九社並藤島村にあり

白山社

本郷村にあり菊理媛命大己貴命伊弉册尊三坐を祭るといふ當社は本郷岩崎藤島藤枝四村の惣本居神にて近村無双の古社なり古棟札あり甚古きは字形消て讀得かたぐ時代一られす

大工小嶋彌左衛門

奉造立當庄守護所本願敬白

于時文永十一年甲戌九月十八日

大工藤原小番大夫宗次

尾州山田庄八事北迫岩崎郷願主 敬白

癸巳九月六日 子キ 八十七

とありて年号の文字消たりこの札は文永のよりも今少一古代のものと見ゆるにつきて癸巳とある支干とめて文永以前をおせば天福元年に當るも又其己前の癸巳なる時の高倉天皇の承安三年也山田庄号及八事北迫といふ名目のやく古きを思ふへし八事北迫といふ事は康正二年の段錢引付にも見えたりさて大永三年九月十日丹羽若狭守氏清のトめて祭祀を修せられたるより今に至るまで四村の里俗祭事と勤る事たえず相承す末社に神明社 稻荷社 秋葉社 香良洲社あり社人と小塚甚太夫と云

別山社 白山の社より西の方荒土と云ふ地にあり伊弉册尊を祭る

山神社 三所あり村内本田稻場 榎木など呼地にあり

この四社も同村にあり



神明社 白山社 辨才天社 山神社四所 八幡社 天王社二所  
みな岩崎むらにあり

浅間社 山神社平子といふ處にあり 日割社

藤枝村にあり

神明社境内に鍬神社あり 是を村の氏神とす 春日社 八幡社直會といふ地にあり 山神社三所 社宮司社

以上ともに米の木村にあり

神明八幡春日相殿社當社を村の氏神とす 稻荷社 山神社 天神社

以上並野方村にあり

八劍社 山神社二所

この三社浅田村にあり

天地社府志に祭神不詳明應七年戊戌建之とあり境内に鍬神社あり 山神社二所

この三社赤池村にあり

八幡八劍天神相殿社是を村の本居神とす 富士社 山神社二所

この四社梅もり村にあり

八幡社 山神社四所 神明社 白山社

この七社並高針むらにあり

八幡社天正八年室賀久太夫修造す是の村の本居神也社人磯村木工太夫 神明社 山神社二所

この四社植田むらにあり

一、御前社

八事村にあり祭神定りならず二坐のよーいへり天文十五年以後の棟札有り末社に八幡天神相殿社 山神社又修験金剛院あり

八幡社

同村音聞山のふもとにありて神功皇后應神天皇玉依姫三坐を祭るよーいへり社人ど

富田式部と云

高峯社祭神詳ならず 富士社音聞山にあり 修験珠寶院 白山社 山神社三所

この六社も同むらにあり



熊野社

嶋田村にあり熊野櫛樟日命事解之男神速玉之男神三坐と祭るといふ當村上郷下郷の本居神也境内に末社秋葉のやしろあり

神明社 支色池塙島の氏神也 境内に秋葉の社あり 天神社 神明社より南の方にあり 少彦名命を祭るといへり 若宮八幡社 仁徳天皇をまつれり

山神社 三所

この六社も同村にあり

八幡社 野平にあり 白山社 八幡社 山神社 二所

この五社中根村にあり

八劔社 當社を村の氏神とす 末社六所社秋葉社 神明社 八劔社より北の方にあり 山神社 田神社 氏神より南の方にあり

以上ともに野並村にあり

八幡社 山神社

二社ともに平針村にあり

八幡社 天道社 山神社 稻荷神

四社ともに折戸村にあり

春日社 白山社 大日坂といふ地にあり 神明社 稻葉山といふ處にあり 山神社 神の木といふ地にあり

ならひに和合社にあり

白鳥社

諸輪村にあり日本武尊と祭る當社に文龜元年八月拜殿造立の棟札あり末社熊野社及八幡社あり社人を大原七郎太夫と云

一御前社 白山社 八王子社 山神社 五所

この八社ともに同むらにあり

春日社

傍爾本村にあり當村の氏神とす境内に神明社及愛宕社あり神明社の棟札あり如左

大願主沙門宥賢

奉造立御社一字應永廿八年 辛 極月十九日 丑

大工又次

山神社 氏神より西の方にあり 熊野社 氏神より東の方にあり 山神社 氏神より南の方にあり 知立社 秋葉社

この五社も同村にあり



淺間社

祐福寺村にあり是此處の本居神也 府志に祭禮毎歲五月廿八日祐福寺僧會之誦大般若經と見えたり攝社に神明社 熊野社 伊豆社 白山社 日吉社 鹿鳴社 三島社 箱根社などありて麓に大日堂不動堂藥師堂文珠堂秋葉堂籠堂コウダなどあり 天王社 神明社 八王子社 辨才天社 天神社 山神社二所 並同村にあり

春日社 八劔社二社同地也未社に秋葉の社金毘羅の社あり 多賀社 社宮司社 山神社 五社ともに部田むらにあり

諏訪社

沓掛村本郷にあり末社天王社 天神社境内にあり此社當村の氏神なり當社御正體御筥にうら書あり其文

大願主藤氏義行息安穩增長福壽子孫繁昌千旨万祥皆令満足

太歲乙應永三十二年十二月廿六日

阪訪上御宮

敬白

とあり又神鏡一面あり鏡のうらに藤原金益とかけり社人々磯部志摩と云

鹿島社宿にあり 神明社西川にあり 八幡社徳田にあり 住吉社上高根にあり 一御前社下高根にあり境内に安産泉

と云ふ清 水あり 白山社 天王社 神明社中川にあり 八幡社大久手にあり 明神社中島にあり 八幡社

社高鴨にあり 明神社吉池にあり 八龍社川部にあり 若王子社 天白社 社宮司社 神明社

社 辨天社三所 山神社十所

並同村にあり

八幡社 神明社 山神社二所

並孫目村にあり

諏訪社 熊野社 山神社

並相原村にあり

神明社

平手新田にあり

神明社境内に山神社あり 天王社あり 山神社三谷にあり



二社五軒屋村にあり

八幡社

鳴海むらにあり應神天皇と祭る創建の年月定りならずいにて一へ神領ありけるが今  
の絶り弘治天正などの證狀に成海神社とひとく此社号も見えて並々ならずり  
社なる事も知られたり神主久野陸奥守と云

神明社神主菊田敷馬

諏訪社境内に下諏訪社あり

白山社菊理媛命を祭る

天神社祭神成海神社同神也朱雀元年鎮坐の由

神

明社 山王社大山昨神を祭ると云へり境内に天白社あり

山神社六所

天王社

雷神社

浅間社

秋葉社 八幡社古鳴海にあり

神明社二所同處にあり

天神社

細根山寂照菴の境内にあり末社に住吉社稻荷社あり

以上社同村にあり

三所社伊勢大神熱田大神戸部天王を祭る

秋葉社

二社ともに戸部下新田にあり

いなりの社

忠治新田にあり

神明社 天王社 稻荷社

三社ともに道德新田にあり

八幡神明熱田相殿社

養林寺新田にあり

八幡社

平野村にあり

神明社二所

牧野村にあり

八幡社中野分の氏神也

水野社高畑分の氏神也社人古川左膳

二社並中野高畑村にあり

八幡社

中島村にあり

八幡社社人古川式部助

天地神社伊弉諾尊を祭ると云へり末社稻荷社あり

六所社

是は神明八幡白山社宮司金尾羅役小角像と六幅あるを總いふ社號也



天王社 境内に神明あり

天王社 境内に神明あり

以上榮村にあり

神明社

おしきりむらにあり

天神社

日比津村にあり府志云本國帳從三位土江天神恐是 今社地荒廢不知其傳惜哉  
といへるいまこと必然事也 されどもこの土江天神とあるはたゞ一本の國帳のみにて貞治の熱田本元龜の國衙本にはどもに入江天神とありて土江天神といふ名目なく又土

江天神のある古本には同郡沼江縣天神をも載たれど入江天神なしかれは土江と入江と名はことなれど全同地なるへく泥江縣と土江とは同社混合したる様なれどもとより別地異神なるもの也其ゆゑはまつ此日比津といふ村名は近世の訛にてもとは泥津と呼り日比津むら常徳寺の古藏書應永八年にかけるものに愛智郡泥津長秋山常徳寺建立の事云々とあるを近年此寺にて見たりヒヤといふ語をかくわやまれるは万葉集に比治奇の奈太とよめるを今ひいさの灘と呼り同儀也扱此ヒヤといふとは上古に愛智海の入江の濕地故に負る名なる事明くさして然いふ地はや廣かりしなるへし 今の廣井より日比津のあたりまで其處の殊さらに高腹の土地を泥江縣國帳從三位といへりしならん 縣はもと上田の處なるなりつり今この廣井村是其地也かくて其愛智海の入江の形勢は古圖なければ知べきよしなれど處のさまにより古傳説に隨ひ古書を考へて按に熱田より北は廣渡村廣井村あたりまでの西づらを東のはてとして西南の方は海東郡榎津村伏屋村などの東づら北の方へ長

く巨れる其北東の極は此泥津西の方は甚目寺村あたりを限りや廣くつらなれる入海なりけむ甚目寺菴津あたりを阿波手の浦といへり其は九百五十余年も以前仁和の項の事也 上菴津村の傳記に仁和三年比上にいへる國帳に土江入江と社號のことなるは元來二本二やうの古傳説有し故ならん 古傳記と傳説の土江泥江縣の二神廣江泥津の二村に坐も故縁ある事なるへし又泥津に在て土江と社號の異なるは川原神社の川名に坐がとどく諸國にも證例あり府志にいへるごとく此社地狭少になりて荒蕪したれども遺跡猶定かなるのみならず天神と申す社號さへ正しければ舊にかへして帳内神社の列に稱擧奉らまはしければ後の識者の定めを俟てしはらく諸社の並につらぬつ

白山社 村の本居神とす元祿三年以後の棟札十二枚あり社人小出内記 八幡社 諏訪社

この三社も同村にあり

八幡社

大秋むらにあり境内の末社に秋葉の社あり社人増山右内

八幡社 春日神相殿

上中村にあり當社を村の氏神とす弘治元年乙卯太閤秀吉公造營一給り公この村人にて當時ことさらに尊崇深かりとそ加藤肥後守清正主も又この郷生れの人なりと か天正十八年庚寅十二月朔日本願の大檀那にて造營ありつゞきて慶長三戊戌年清正主の母堂拜殿を建らる寛文二年壬寅二月山下市正氏政修造せらる境内の末社に神



明社秋葉社あり

神明社舊址

同村八幡の社より東北にあり

八幡社 日宮社舊址楠樹一本  
たてり

二社並下中村にあり

神明社天照大御神をまつる村の氏神  
也境内の末社八幡社春日社

白山社 八幡社二所

十二所社氏神より卯  
の方にあり

毘沙

門社 鎮守社氏神より午  
の方にあり

神明社小鍋といふ處にあり境内  
の末社八幡社春日社あり

大日社 大明神社東宿  
といふ

ふ處にあり此  
處の氏神也

神明社 八幡社六石新田  
にあり 天王社氏神より辰  
の方にあり

以上稻葉地村にあり

若宮八幡社 くまの社 金山社 サグジノ社 辨天社

並米野村にあり

神明社

北一色村にあり境内の末社に權現社秋葉社あり

神明社 サグジノ社

二社並露橋むらにあり

八劔社

五女子村にあり

熊野社 白山社

二女子村にあり

八幡社

四女子むらにあり

八幡社

丸米野むらにあり

神明社

中野村にあり境内に白山社八幡社あり

八幡社 天王社八幡の社の同境内にあり村の  
氏神なり社八菊田隼之助と云

サグジノ社氏神より南の方にあり猿田  
彦神天鈿女神を祭るといふ

以上牛立村にあり



神明社 八劔社

中野外新田にあり

八劔社

熱田新田にあり文化十年酉八月勸請す是當所一番割の氏神也

神明社

同所にあり日神月神日本武尊素盞烏尊を配享すといへり當社のこの新田開發の最初に勸請したりと是當所四五番割の氏神也

神明社

同處六七番わりの氏神也

寶田社

同所八九番割の氏神也

八劔社

同所にあり末社に戸部天王社池鯉鮒社あり十一番割の氏神也

天王

社

同所にあり當社は慶安四卯年初て勸請すといへり十四番割の氏神也

神明社

同所にあり天照大神素盞烏尊日本武尊を合せ祭るといへり十七番割の氏神也

神明社

天照大神國常立尊を祭る十八番割の氏神也

神明社

同所廿番割の氏神也

神明社

同所廿二番割の氏神也

神明社

同所廿八番割の氏神也

神明社

同處にあり天照大神豐受大神を祭るよと云り當村は廣井村淺間社の境内に有りと安永八年己亥九月此處に移して齋祭る社覆高八尺九尺四面石垣高四尺壹丈四面拜殿烏

居及修造の棟札もあり是當所三十一番割の氏神なり

稻荷社

二所

神明社

龍神社

並熱田前新田にあり

八劔社

土古山新田にあり

神明社

當知新田にあり

神明社

甚兵衛後新田にあり

八劔社

弁才天

相殿社

神宮寺新田にあり

八劔

相殿社

寶來新田にあり

いなりの社



稻富新田にあり

浅間社

下一色村にあり

白山社

大蟻娘村にあり

神明社 境内に淺間社あり サグジノ社 上之切といふ處にあり

並中須村にあり

高野宮神明社

横井村にあり高皇産靈尊を祭るといへり創建の年月知りたしといへとも文明十七年當郡下一色の城主前田與十郎修造ありて近村に勝れたる神社なり毎歲正月十一日備

三稻束及鉄六口二神人六員爲田鉏祭謂之諸頭と府志に見えたり 按に此横井むらわたる往古は伊勢神宮の御

領地にて一楊御厨といへり然いふ名は神風抄玉藥鏡矢記等に見えたり又此あたりの郷名を御厨郷といひし證故も前田村高田村などに残りて慶長慶安の頃かけるものに見えたりとみなしらすなりぬるをこの横井の一村にのみ御厨郷といふ郷名の残りていひならへるはゆづらう也又此村に伊勢田と云神田五畝歩前々より除地にて傳來れりといふされは此御社の祭神も伊勢大御神なる事は疑なからしを高皇産靈神のよしへ

はるいかにあらむ社號をおもへばかの伊勢の神宮に坐高宮をうつして祭れる御神にや高宮と書てタカノミヤと申すべきを野文字を添てかけるにもやあらむ此社號を府志に高野祠とかけるを今此處に改て高野宮神明社としもあげたるはふのれ此社の由緒等問あきらむる時社家より書て出せるには高野宮とのみありしを村長の出せるものには高野宮神明社と書りこはいとよき書さま也野文字を省きて直に高宮神明社と記さまはしけれとみだりに私せずしはらく舊に依て記せり此社の正殿は千木鏝木ありて俗にいはいはゆる神明づくりといふ製造なるに神明とまらす御名を村民のいひならへるをおもふへし神明と唱へまつるは伊勢内外兩宮大御神にかさりて他神には決て申さる社號也高宮は神名式に伊勢國度會郡高宮 大月次 見へ度會宮 豐受大 のことにかもだちたる別宮にて豐受大御神の荒魂に坐事倭姫命世記に見えたり式帳にもはやく宮號をかゝれていと貴き神宮也 宮號はみき下されどもそは其本所にかきれる社號なるを移して祭れる小社にも多く呼ならへるは安んざなれば據へきにあらす社八を二村齊宮と云

七社社

岩塚村にあり熱田七社神を祭る社殿三字相双へり中央本社にて日本武尊右の社八劔高倉大福田左の社に日割氷上二神を相殿とす源大夫神社の境内の末の方にあり是と總て社号と七社とぞいふなる應永三十二年に吉田治郎右衛門守重社殿を修造す境内に縦横四間二尺はがりの塚ありて其處に縦四尺横三尺ばかりの岩立り名と不生石といふとそ是の村名の岩塚といへる本基也又本社西の方に社宮司社白山社熊野社東の方に大日社天神社若宮八幡社巳の方に辨才天社などの末社あり此七社



社この村の氏神なり社人を吉田求馬と云

八幡社

氏神社より巳の方にあり  
未社に富士社白山社あり

八社社

氏神の社より南にあり  
未社に劔社あり

神明社

氏神より  
未にあり

八劔社

天王社

氏神より辰  
の方にあり

以上ならひに同村にあり

神明社

村の氏神也未社に  
白山社八幡社あり

八王子社

氏神社より  
東南にあり

サグシノ社

氏神社より  
東にあり

以上野田村にあり

神明社

打出村にあり

白山社

東起村にあり

雨宮社

天照大御神高麗神を祭れり未社に  
白山社富士社あり神人高羽馬之助

風宮社

中島新田の地内にあり天照大御神  
級長戸邊命級長津彦命を祭ると云

社宮司社

雨宮社より東の方  
寺前といふ所にあり

御山戸社

境内古松  
三株あり

以上中郷村にあり

神明社

高畑むらにあり

神明社

未社に鹿島社  
天王社あり

山王社

白山社

辨才天社

富士天滿天神相殿社

中脇といふ處

風宮社

宮窓といふ  
地にあり

あらこむらにあり

神明社

畑田といふ地にあり未社  
に春日社八幡社あり

八劔社

二所 同  
處にあり

並中島新田にあり

日神社

日神社の境  
内にあり

ならひに八ッ屋村にあり

稻荷社

小塚むらにあり

神明社

當村の氏神なり未社  
に春日社富士社あり

白山社

氏神社より  
東にあり

並万町むらにあり

知

三十一



神明社

八田村にあり

天神社 神明社 天神社より東の方

八幡社 天神社より東北にあり

並かすもりむらにあり

八劔社 願成寺の境内にあり

白山社 淺間社 辨才天社

以上並高須賀村にあり

八劔社 熊野社 天神社

この三社長良むらにあり

神明社

本郷むらにあり末社に淺間社 白山社 天王社 官司社あり

寺院

天台宗

長圓寺

上中村にありて醫光山といふ春日井郡野田密藏院に屬り創建の年月知かたしもとは眞言宗なりしが寛永十六年己卯八月當宗に改む藥師佛と本尊とす境内に金毘羅又石像の三十三觀音の堂あり


願成寺

高須賀村にありて高須賀山といふ野田密藏院に屬り天平四年行基の開基にて大永年中に盛海上人中興すといへり往古ハ伽藍の靈場なりしが中世悉すたれて今のごとく一堂宇となれり堂中に朽たる両金剛の像あり空海の作といひ傳ふ又僧圓空が彫れる柿本の人麻呂の像あり甚古雅也寺領も若干なりしと織田信長公々収せられたりとそ本尊藥師佛と安置す又境内に八劔白山淺間辨才天などの社あり

觀音寺

荒子村にありて靜海山といふ本寺上におなじ天平元年自性上人の開基にて上古ハ七堂伽藍塔頭十二坊の堂宇並ひたち郡中無双の靈場なりしかとも衰廢せしと永祿の頃智音院法師全運是と再營中興すといへり寺領も三十余町ありしが天正年中檢地の



とき悉沒收せられたりとそされども尾張四観音と呼ならへる其一道場にて參詣の人  
他寺に異り本堂泰澄和尚の作の観音と安置す多寶塔護摩堂又二王門あり是は僧圓空  
が作なりといふ當寺往古のありかは高畑村の北の方八田村より一町はかり南の方に  
あり其處に字と本堂といふ是荒子観音の本堂の址なり又此本堂といふ處より半町余はかり  
も隔て大門といふ字あり是もかの大門なり一より傳へいへりさて寺に白木の古位牌  
一基ありて表に數人の法名と書り其臺坐の裏書に 過去帳修補造之永祿八年乙十  
二月八日観音寺願主正清法印全運智音院引  書之とあり

### 大聖寺

八事村にありて泰幸山といふ本寺上に同じ創建の年月知かた一賢榮法印と開山とす  
といへり賢榮ハ天正頃の人也とそ境内に十王堂あり

### 東福寺

菱野村にありて瑞雲山と号し春日井郡野田村密藏院の末寺也創建の時代詳ならず僧  
宥運と中興の開基とす本尊藥師佛を安置す

### 眞言寺

### 神宮寺

御器所村にありて醫王山といふ紀州高野山蓮華谷誓願院に屬り嘉吉元年當所の城主  
佐久間美作守家勝創建のよし傳へいへり是八幡社の官寺也本堂藥師佛を安置す境  
内に庚申堂あり青面金剛及脇侍の二軀木像あり

### 大喜寺

大喜村にありて増益山といふ紀州高野山彌勒院に屬す創建年月知られず大日如來と  
本尊とせり府志に又有大喜寶殿熱田遙拜所也往昔大内人來拜此地而今廢焉とあり  
按するに此村に熱田神官大喜氏五郎丸といふもの住てありもしくは其比彼家より創建したる大日堂にもや  
あらむ大喜といふは此地本居の氏人にて本姓を守部宿禰といふ今大喜備前守 清延の家也されは此村に森部と名字をいふ  
民家十餘人あるもみな此同族なるへし大喜といふ家は此處より出て後熱田に移れるなり神官の内に今は 尾張姓もあり大喜が  
住へるによりて村の名となれるにはあらずこの大喜といふともは大毛にて和名抄に見えたる舊地也大毛を  
マイケと訓て又はマイギともいひけむ後に好字につきて喜文字に代たるものならむ神官の宅址は今も猶五  
郎丸屋敷といふて當村の 境内に三十三所の観音及普光寺如來などもあり又什物に宣揚院  
うち坊山といふ地にあり



殿より御寄附の葵御紋附の御戸帳華鬘及御紋付ちやうちんなとあり

海上寺

高田村にありて龍王山といふ本寺上におなと寛永十六年再建したると享保中建改じかとも又破壊に及へるによりて天保六年又造營す僧誠音を中興開基とす是寛永造立の本願主也本尊ハ弘法大師作佛の薬師如來也異驗いちしるく詣る人多し心願成就の賽拜に必粟と進供とす仍て粟薬師といひならへり本尊脇立の十二神將等は俊慶比丘實名 不思議の夢想の靈告ありてさづかりし古像のよしいへり境内に白山八幡秋葉等誠音 合殿の社ありて鎮坐とす

薬師寺

本願寺村にありて琉璃山といふ名古屋寶生院に屬り創建の年月知かたし寛文中僧宥俊再建すよりて中興の開祖とす薬師佛を本尊とす境内に三十三所の觀音あり

笠覆寺

かさせらむらにありて天林山と号し本寺上におな一聖武天皇大御代天平八丙子年善光上人開基にて十一面觀音の像を安置し小松寺といふ此佛像ハ其頃呼續の浦に

さよひてよるく光をはなつ奇木なりしと善光上人の彫る也其後あまたの年月を經て堂舎破壊し荒野の中にひとり佛像のみ雨露におかされ立給へると鳴海の長者太郎成高が家女見るにたえむ着たる笠とぬぎて此佛に着せまつりぬ笠寺の名是より起れり此家女後に藤原兼平朝臣にめされし因によりて延長八庚寅年にかの朝臣堂舎と興復造立し給ひ田畠數百町と寄附ありて笠覆寺といふそれも又荒廢に及へりしと四條天皇の大御代嘉禎四年十二月僧阿願解狀と捧けて天聽に達し宣陽門院の廳宣と給りて荒野參町水田若干町と寄附し本堂又僧坊十余宇を造立再興せり宣陽門院の廳宣及阿願の解狀正元一年八月廿日に書る同人自筆の寄進狀建長七年乙卯十月七日に書る阿願并領主比丘尼念阿彌陀佛の文書目錄をはじめ文永應永永享文安寛正應仁文明長享延徳大永天文元龜天正などの寄進狀文書のたぐひ猶多かり

本堂南面 大師堂同面 薬師堂西面 護摩堂南面 寶藏 辨財天女堂西面 二重塔 阿彌陀

堂 地藏堂南面 鎮守白山社 玉照姫仮堂 稻荷社地藏堂の傍にあり 二王門 西門 鐘樓鐘の作り

なまよと古くて龍虎獅子等の形あり銘に曰 尾張 國屋前笠覆寺 建長三年辛酉五月廿三日 阿願花押



塔頭のみと十二院ありしが今は僅に六院残り寺領高十五石ありこれは慶長十四年  
己酉三月伊奈備前守檢地のとき定められたる如く御代々然り此内にて一石五斗ツ、  
六院に配當す其六院左のこと

**東光院** 創建の年月知られず天正五年僧乘圓再建すより中興開祖とす境内に熊野社天神社この天神の画像のう  
菅田神社主左近將監藤原安長曆三年庚辰八月八日應永八年辛巳八月十一日在大風一懸三高木枝二不思議也爲三文像一記とありこ  
の像は文祿四年豐臣關白秀次公自書、時其縁坐によりて山口少露誅さる、時狹箱一ツ當寺に預れる  
中にありしを檢使の時見もちしたるに箱の中に殘れるを此院内につき祭れる也と寺傳に云へり 又聖天堂一字あり

**泉増院** 創建の年月知れず天文八己亥年僧榮 朝再營す仍て榮朝を中興の開祖とす **慈雲院** 創建の年月知れず大永年中僧 政覺再興す故に中興開祖とせり **西福院** 創建の

ならず天正八年再建の志主 僧眞空を中興の開祖とせり **西方院** 草創の年月知られず天正十年に身ま 寶壽院 創建の年月定かなら ず元和六年僧政秀中

興す此六院いづれも天林山を稱し名古屋寶生院に屬りさてこの笠覆寺は尾張四觀音の一道場にて東海道中  
の驛路なれば旅行の道者はさらにもいはす國人貴賤の參詣もよとに多かる靈地也たいし往古は今の地には  
あらず六町はかり南の方に舊址あり又二町はかり南の方に池あり二王堂の池と呼べり今の地に移せるは何  
ばかりなりけむ知れず

### 常樂寺

中郷村オニヤカにありて如意山といふ本寺上におなじ泰澄大師開基にてむかいは一山内に六  
院ありて寺領も上畠廿四町ありしが文和年中火災に罹りて山内悉焼亡すかくて後六

院のうち三院斷絶して三院残りしを僧慶常志とせしめて本堂及二王門寶珠院東藏  
院光明院と再建す然るに明曆年中に又燒亡して東藏院廢れたり寛文六年に寶珠院の  
覺道光明院の日政心とともにより力とあはせて再興すといへり

本堂 行基作の藥師坐像 鎮守山王社 塔頭 寶珠院 境内に不 光明院 境内に秋葉社  
の木佛を安置す 動堂あり 白山社あり

### 東福院

なるみむらにありて護國山といふ名古屋長久寺に屬り創建の年月知られず寛永の頃  
盛辨といふ僧再營す即中興開祖とす

護摩堂 大日佛を安置す境内に白山、  
社辨才天、社稻荷、社あり

### 興正寺

八事村にあり八事山遍照院といふ泉州大島山神鳳寺派なり元祿元年戊辰瑞龍院君是  
と創建し給へり弘法大師を開祖とし僧天瑞と中興の祖とす正堂方丈庫裡護摩堂輪藏  
鐘樓旅僧寮 或ハ六部堂 ともいふ などはじめ鎮守八幡社もあり山の頂上に銅像の大日如來を安置  
して本尊とす長一丈二尺石坐にて南面にます石坐シヨツカの下方五間に經石と藏めたりこの  
いたゞきより眺望する景色いふはかりなり像背の銘に沙婆世界東下南瞻部州大日本



國尾張愛智郡八事山遍照院興正寺本尊大日如來大願主從二位權大納言光友朝臣維時  
 元祿十年丁丑孟夏大吉祥日當時中興末孫天瑞圓照銘之とあり又標石二基あり一基ハ  
 女人禁制といふ四字を彫一基ハ不許葷酒入界内といふ七字を彫れり門内に不動の石  
 像又制禁の榜五輪の塔なとありすへて是と東山といふ又西山といふ處はもと比丘隱  
 退の地にて普門寺といふ是を開山堂ともいへり觀音堂虛空藏堂旅僧寮月庵又鎮守辨  
 才天社なとあり此西山は女人とゆるさる故に參詣の人多し寺領高五十石あり是ハ  
 元祿二年己五月瑞龍院君より給れるによりて御代々かくのごとし寺寶に鑑真和尚の  
 袈裟ありこハ天和二年八月十五日大鳥山神鳳寺の比丘元真より天瑞律師へ附與した  
 るなり漢の未央宮の瓦硯又瑪瑙石の香盆此二品瑞龍院君の御寄附也浮牡丹香爐ハ寶  
 泉院殿の御寄附也顔輝畫一幅あり法眼永真が極書又添書なともあり

天福寺

戸部村にありて海南山といふ名古屋長久寺に屬り慶長十一年忠吉君御創建にて政鏡  
 法師を開祖とするとは當所より一町はあり西の方に花王院といふありこを移して御  
 創建ありその舊地ハ字を學頭といふ今に至るまで當寺引得せり是當所の天王社の

宮寺別當なり

禪宗臨濟派

長松寺

米野村にありて慈峯山といふ名古屋政秀寺の末寺也慶長十乙巳年宗信といふ僧の創  
 建也十一面觀音と安置す境内に藥師堂あり

凌雲寺

稻葉地村にありて集慶山と号し京都妙心寺の末寺也永正年中に津田豐後守創建にて  
 僧南溟を開祖とす天文五年丙申十月廿八日豐後守卒當寺に葬む凌雲寺殿泰翁紹凌凌公  
と書るも乃わ 禪定門家系及寺記に居士とあれ といふ豐後守及嫡男玄蕃允をはじめ子孫歴代  
り誤りなり 禪定門と墓碑によりてかけり の墓所あり豐後守は織田信長公の伯父に坐して公幼き時當寺にて手習し給へり草  
 紙掛松といふ古樹本堂前庭にありしが今年枯たるよーいへり舊は塔頭末寺も九坊あ  
 りて寺領も百三十貫々塔頭末寺領七十貫文總て二百貫文ありしが豐臣太閤の御代に



公收せられたるよし寺記に見えたり本堂に定朝が作の観音を安置す又境内に観音堂  
鎮守辨才天社などあり

泐潭寺

間米村にありて萬松山といふ本寺上におなう熱田大法寺の支配也もと春日井郡  
大曾根村に方便寺といふ廢寺ありしと寛永廿癸未年再興して方圓寺といへり然るを  
寛文七丁未年此村に移して泐潭院といへりしと延寶八庚申年寺号に改む本堂に木佛  
坐像の十一面觀音を安置す境内に鎮守堂もありて古松立り

觀音寺

上社むらにありて萬松山といふ熱田海國寺に屬り建久年中に山田次郎重忠創建あり  
て其後破壊しとると慶長年中に再興し僧南嶺と中興開祖とせり本堂に木佛坐像の釋  
伽如來と安置す又觀音堂の本尊ハ山田左衛門守本尊なりといふ藥師堂鎮守のや  
ろなともあり

濟松寺

高針村にありて大龍山といふ名古屋總見寺に屬り創建の時代知られずもとは瑞松院

といひしが享保年中に瑞祥院女君の御諱をさけて今の名とす本堂に觀音を安置す

芳珠寺

古井むらにありて金龍山といふ妙心寺の末也慶長年中僧久岳創建す當時は曹洞宗に  
て同村光政院に屬寶珠寺といへりしが延享三年丙寅八月當宗に改て巾下海福寺に屬  
彼寺六世珉嶺を中興開基として川村與右衛門再建せり同四年丁卯正月寶の字を更て  
芳の字とし同五年戊辰六月妙心寺の末となる客殿に小野朝臣篁の作といふ地藏の像  
と安置す境内に不動堂又三十三所の觀音堂等あり

安住寺

中島新田にありて一元山といふ本寺上に同一寶曆五年乙亥十一月知多郡須佐村に長  
泉寺といふ廢寺ありしを此處に再興してかく名つく境外に觀音堂あり

禪宗曹洞派

龍興寺



御器所むらにありて瑞雲山と号す春日井郡大草村福嚴寺の末寺なり創建の年月定かならねとも天文年中に當所の城主佐久間大膳造立のよき寺説にいへり當寺過去帳に龍興寺殿半入立心居士城主佐久間大學天文八己亥十一月廿八日とあり釋伽佛と本尊とす鎮守白山社秋葉社等あり

宗圓寺

同村にあり瑞現山といふ同所龍興寺の末寺也草創の年月しられず龍興寺の第四世日山と中興開山とす十一面觀音を本尊とす鎮守秋葉社

淨元寺

同むらにありて清澤山といふ本寺上におなほ永録年中に創建すといへり法名正體淨元といふと開基として寺号におふせたる也本堂に木像の觀音を安置す内境に鎮守社また姫塚といふ古墳龜口井などあり是は古墳の部山川の部にいへり

久松寺

同村にありて龜齡山といふ本寺上におなほもとは久松庵といへり當郡荒子村奥村助右衛門建立にて龍興寺第八世虎岩和尚を開祖とし久松寺と更たりといへり本寺阿彌陀

陀如來なり境内に鎮守白山かすぐ八幡相殿のやしろ又地藏堂あり

盛屋寺

高田村にありて月桂山といふ御器所村龍興寺に屬り草創の年月しられず觀世音を本尊とす境内に藥師堂鎮守の社三十三所觀音等あり

天聖寺

北井戸田村にあり龜嶽山といふ熱田の圓通寺の末寺也創建の年月知かれず本堂の外觀音堂一字境内にありしが荒廢して此觀音と客殿に安置す

長福寺

本井戸田村にありて喜覺山といふ熱田圓通寺の末寺也永正の頃の創建にて讚公和尚と開基とすもとの龜嶽山といひしと後に今の号とす運慶が作の正觀音を安置すこの糟谷藤太信重深く崇敬しけるよき傳へいへり境内に天滿天神の社秋葉堂役行者堂地藏堂等あり

龍泉寺

同むらにありて龜井山といふ本寺上におなほ舊に龍泉庵といひしと後に今の号とす



應仁元年の創建なるよし也往古は當村に藥師寺正眼庵福樂寺といふ三ヶ寺ありしが藥師寺に塔頭五庵ありて龍泉庵龍雲庵福傳庵妙喜庵藏傳庵といへりこの龍泉庵即當寺にて今の本尊いもとの藥師寺のなりといへり三ヶ寺及四庵並廢れて當寺のみ殘れるゆゑに彼三寺の舊地みな此寺の扣となれり本堂に藥師佛と安置す聖德太子の作といへり協侍に大日不動の像あり大日弘法大師の作不動行基菩薩の作といふ境内に龜井の水あり是山号の基也賴朝將軍のうぶ湯に用ひよと云傳へたり又阿彌陀堂觀音堂禪堂庫裡等あり妙音院太政大臣師長公大黒塚といふ社龜井の六郎が塚などいふもあり當所若宮社の藏書大般若經六百卷も當寺に所持せり

### 白毫寺

山崎村にありて眉間山といふ本寺上に同一創建年歴とられす鳳岩和尚と中興の開祖とす鳳岩は元和元年に身まかれり本尊阿彌陀如來也境内に秋葉堂あり

### 法泉寺

同むらにありて龍雲山といふ本寺上に同一文祿元年僧元苗創建す坐像の藥師佛と本尊とせり

### 黃龍寺

同村にあり梅林山といふ本寺上に同一創建の年月定かならず文祿十四年にみまかりし僧義光を中興の開山とす正觀世音と本尊とす境内に菅公の社あり是は文祿元年熱田誓願寺より遷坐ありといへり

### 長樂寺

戸部村にあり日惠山といふ本寺上におなじ創建の年月定かならず義山和尚を開祖とす坐像銅佛の大日如來と安置せり

### 慈照寺

同村にあり寶林山と云本寺上に同一創建の年月定かならず虚空藏菩薩と本尊とせり

### 醫王寺

新屋敷村にあり大雲山といふ本寺上におなじ天正二成年僧惠見是と創建す即開基とす木佛の藥師如來を本尊とす協侍日光佛月光佛二軀の木像境内に庚申堂鎮守堂あり

### 成道寺

同むらにありて芳樹山といふ本寺上におなじ天正二年春公和尚の開基也本尊釋伽佛



を安置せり門外の鎮守白山社あり境外に石薬師あり當寺是を掌る

### 法藏寺

中根村にありて中根山といふ本寺上に同し創建の年月知られずといへとも僧大安と開基とす大安天正十二年みまかれり本尊釋伽如來を安置す

### 太平寺

川名村にありて護邦山といふ御器所村龍興寺の末也享祿の頃佐久間權平創建すといへり釋迦佛を本尊とす境内に薬師堂及石像三十三所の觀音堂あり

### 香積院

同村にありて味岡山といふ武藏國埼玉郡成田村龍淵寺の末寺也貞享五年三月創建す開基は萬松寺寂元和尙也本願主名古屋久屋町味岡次郎九郎法名自白なり木佛坐像の釋伽を本尊とす僧堂衆寮などあり

### 新豊寺

同村にありて鳳凰山といふ遠江國城東郡兒隣村少林寺の末なり寛延元年辰十月創建す薬師佛を本尊とす

### 善昌寺

石佛村にありて慈雲山と云御器所村龍興寺の末寺也慶長十三申年僧鑑宗創建即開祖とす釋伽佛を本尊とせり白山社及觀音堂石地藏など境内の東隣にあり觀音堂には石像の千手觀音を安置す是石佛村の名のもとなりくはくは白山社の條にいへり

### 地藏寺

島田村にありて古廐山といふ鳴海瑞泉寺末寺なり當寺は喜吉二年壬戌二月斯波中務大輔家氏裔孫鐘崎式部大夫源種國入道樵山の創建にて島田山廣徳院といひしが延徳三年八月水災に遭て堂舎悉く破壊したると明應九年正月鳴海瑞松寺後に瑞泉寺とあらたむ六世秀賢和尙再建して地藏寺と改号す其後天正二年島田山とあらためて古廐山とすもとは島田海道といふ地にありしを享保九甲辰年今の地にうつす定朝が作の阿彌陀佛を本尊とす地藏堂丈六坐像惠信ウケカ僧都の作といふ鎮守社役行者堂などあり

### 瑞泉寺

鳴海驛にありて龍蟠山といふ能登國總持寺に屬す應永十一年當處根古屋の城主安原備中守源宗範創建し大徹禪師を開山とす宗範薙髮して法名を瑞松居士といふゆゑに



寺号にとれりといへり當寺創建以來在地は當所平部山なりしが應仁文明の間出火にかかりて伽藍回祿す文龜元年今地に移す此地はむかし鳴海、長者太郎成高が宅址なりといひ傳ふ享保年中に瑞松院女

君の御諱をさけて今の寺号とす客殿木佛坐像の釋伽を安置し迦葉阿難を脇侍とす殿内に達摩大權千手觀音地藏等の木佛を安置せり境内に經藏僧堂秋葉社鎮守諏訪社等あり又棧門に十六羅漢を安置せり寺領の嘉慶二成年義滿將軍より莊田廿町を賜しが天正の頃悉く沒收せられたりとぞ室物に唐畫の星像二幅是の嘉慶二年辰春義滿將軍の御寄附也堆朱香盤一面是は元和元年家康公より拜領す龍骨の筐一筒などあり

如意寺

同處にありて頭護山といふ同處瑞泉寺の末なりもとは古鳴海の南の方なる地藏山といふ地にありき創建の年月定かならざといへども一條天皇の大御代永延元丁亥年尾張守になりて本國に居給へる藤原元命主の家臣爲家入道法名稱雲道開法師の創建なれば其時代も思ひはからる然るをこの地藏の畧縁記をよめ府志に康平二年の創建と決めたるその據ものに見るを稱雲道開法師の康平三年庚子十月朔日みまよりし由當寺の過去帳に見えたりすべて年月の詳ならぬとあかぬ事とおもへるにか創建の年

月といふには必其寺開祖の身まかれる年ともていへり御國中の寺説大概とかなりさる類はよく訂して取捨して記せり此寺舊地にありし比は七堂伽藍の靈場にて六角二階の殿閣ありて閣上に十八躰の地藏を安置して脇侍としたりも乱世の衰廢に亡て僅に残れる一躰と長六尺三寸小野、篋の作といへり今の十王堂の中尊とすと寺記にいへり又續古今集に鳴海寺とあるは當寺といへるにやと府志にいはれたる如く當寺より古き寺は此地になければ決て鳴海寺とはことをさせるなるべし又地藏菩薩三回靈驗記七の卷にこの地藏の事又藤原元命の事あり元命主を當國守護の様にいへるはあやまり也併見て知へし本堂に如意輪觀音を

安置す地藏堂定朝が作の一丈六尺坐像の地藏菩薩を安置す此地藏尊の腹内に行基の作といへる長一尺四寸の地藏を籠たり是は縁記に十八躰といへる其一躰にて往古は肩問籠といひ傳へたりと此ゆゑに頭護と山号をいひ如意と寺号といふよしも寺説に見えたり又毎年正月廿四日佛像の前にて射禮の式あり的に天下泰平國土安全青鬼降伏といふ十二字を書又村民蛤を拾ひて牲に備て事はて後海濱に放つ例式あるよしいへり按に舊は故縁ある神社の宮寺か又かの本地堂などいふ類なりけむが其神社は廢て祭式のみ當寺に残れるにもやあらむされは山号も上古は青鬼山といひけるよし也此齋地なる地藏山といふ地にまぢかくならへる北の方に今は神



明社といふ社あり是もしくはかの故ある社の衰へませるならむはかりがたし府志に伊福神社を鳴海に  
ある様にいはれたるは天野信景の説に出たれとさる據もありしもなく假にも信かたし伊福神社は此あたり  
ならざる明證及考  
ありて別にしへり  
境内に十王堂小野堂の作といへる地藏及十王と安置す金毘羅社鎮守  
秋葉社などあり

長翁寺

同處にありて白龍山といふ同所瑞泉寺の末也創建の年月知られず照惠禪師と開祖と  
す坐像釋迦佛と本尊とす境内に藥師堂鎮守秋葉社などあり

光明寺

同處にありて一國山といふ同所瑞泉寺の末也創建の年月知られず本寺の九世剛庵和  
尚と開基とす立像の地藏を本尊とす境内に金毘羅堂あり

聖應寺

沓掛村にありて平野山といふ名古屋大光院の末寺也創建の年月知られずもとハ久護  
山慶昌寺といひて臨濟派なり一が寛永年中に曹洞派となり今の山号寺号とせり本堂  
坐像木佛の釋伽を安置す又織田信長公同信忠卿及梁田出羽守の位牌あり

長盛院

同村にありて久寶山といふ同村聖應寺の末寺也寛永元甲子年創建す願主の法名を淨  
貞といふ當時は今の在所より三十間ばかり東の方にありしと貞享二年乙丑十月今の  
地に移す本堂坐像の藥師如來と安置し日光月光佛と脇侍とす

正覺寺

本地村にありて海雲山といふ鳴海の瑞泉寺に屬り天文元年に剛庵和尚創建す客殿の  
本尊觀世音也脇侍に長命水の藥師如來を安置す是ハ弘法大師の自作にて前立と春日  
の作といへり  
松平秀雲の書る縁記に 海雲山正覺寺藥師如來緣起 大日本國尾州路年魚市郡星崎郷本  
地村有一禪刹一山名海雲寺名正覺堂安藥師如來像是秘密宗祖弘法大師所彫刻也傳  
云昔者大師在熱田宮證毘盧眞印修瑜伽密法是時刻藥師尊像以利益衆生也其後安置于此地也土沃  
地高前則諸村櫛比千頃稻梁滿地後則滄海淼漫萬里烟波涵天松嶺添梵唄音江月現光明相誠所謂出塵絕  
境也應緣殊深濟度最新故遠近縉素兒童奴隸亦無不知其靈驗也且其堂傍有一井一里老傳言往時一夜地裂  
忽生泉脈清水湧出咸言琉璃壺中甘露也一浴一飲者宿痼頓愈盲者得明聾者得聰瘡癩癩癩背癩癩狂者悉無不  
治飲之者必得多壽故名之曰長命水有二老尼曾住堂傍飲此水保壽至一百三十六歲終身無  
疾病精神清爽不異少壯其井至今有之世有岡田氏住星崎城信仰此像修造當閣每歲正月朔旦  
汲此水獻織田右丞率以為常天正十年六月二日右丞遭弒是歲正月朔旦遵例獻水至城見之其無漏  
處而水無一滴觀者怪焉果是示凶也十二年三月此城亦陷遂為齋墟其後堂閣頽破無由補理時有賢方



者抱持尊像移之於正覺寺中其後我先君瑞龍公坐橫須賀行殿一詣此寺辱拜尊像爾來信心男女參詣接續然年代久遠恐煙滅罔知故書其梗概以傳于後世云爾昔明和龍集己丑八月張藩書室監君山松平秀雲七十二歳探筆於更隱亭とあり此長命水は當時田子屋の富右衛門といふ民家の中口の前にありて甚美泉也

秀傳寺

平針村にありて祥雲山といふ當郡藤嶋村龍谷寺の末寺也創建の年月知かたしといへども慶長十七年再興すといへり本堂に釋伽佛と安置す境内に觀音堂あり

龍淵寺

赤池むらにありて蟠住山といふ同郡岩崎むら妙仙寺の末寺也天正年中に當城主丹羽帶刀秀信創建のよしいへり釋伽佛を本尊に安置す境内に秋葉堂あり

靈鷲院

同むらにありて久遠山といふ春日井郡三淵村正眼寺の末寺也舊は大森村なる藥師堂とこゝに移したるが享保十五年二月創建して今の名とす

寶泉寺

折戸村にありて竹流山といふ本寺上に同天文四年當處の城主丹羽和泉守源氏從是と創建す木佛坐像の觀音を安置す境内に鎮守社石地藏などあり又丹羽和泉守氏從同

右近大夫氏識同次郎三郎氏重同右近大夫氏勝同勘助氏次等の位牌も當寺にあり

清安寺

諸輪村にありて道休山といふ本寺上に同天文三甲午年岩崎の城主丹羽右近大夫氏識是を創建す本堂釋伽如來の木像を安置し文珠普賢と脇侍とす丹羽氏識位牌あり

龍谷寺

藤島村にありて雲興山といふ參河國加茂郡篠原村永澤寺の末也創建定かならずといへども永正元年心月和尚再建す仍て中興の開祖とす本堂釋伽佛を安置し阿彌陀彌勒と脇侍とす境内に衆寮地藏堂觀音堂鐘樓鎮守社等あり

本亮院

米の木村にありて竹渡山といふ藤島むら龍谷寺の末寺也創建の年月知られずもとは久嚴山昌林寺といひりと天明三卯年今の名とす十一面觀音と安置す境内に三十三所の觀音又金毘羅堂あり

藥師寺

同村にあり藤島村龍谷寺の末也創建年月知られず藥師佛を安置し十二神將と脇侍と



す境内に天王社あり

妙仙寺

岩崎村にありて大椿山といふ播磨國加藤郡山國村妙仙寺に屬り明應六巳年當處の城主丹羽若狹守氏清創建にて來鳳和尚開山たり本尊釋伽如來と安置す鎮守白山社境内にあり又慈眼庵といへる塔頭一字あり

地藏菩薩を本尊とす當庵は慶長二巳年僧譽春開基創建す觀音堂鎮守秋葉社等あり丹羽家歴世の菩提寺にて墓所及古位牌などみな當寺にあり

前熊寺

前熊村にありて天申山といふ藤島むら龍谷寺の末寺也寛永十二年亥八月僧滿嶺再興建立す本尊釋伽如來と安置す

昌隆寺

同村にありて藥王山といふ同郡岩作村安昌寺の末寺なり創建年月知られず僧秀傳と中興開祖とす藥師如來と安置すこの藥師もとは別地にありしと後こゝに移しよる也

永見寺

大草村にありて水福山といふ春日井郡白坂雲興寺の末寺也創建の年月しられず舊の

臨濟派なりしが寛文七丁未年改て曹洞派となる假舎に地藏尊を安置す是を火禦地藏といへり

仙壽寺

菱野村にありて福祿山といふ本寺上におなじ創建の年月知られず本堂に觀世音と安置すもとは臨濟派也を寛文七丁未改て當派となる

寶生寺

本地村にありて佛法山といふ本寺上に同一創建の年月知られず寛永九申年再建す其時は當村八町地といふ處なりしと享保五年今の地に移す本堂坐像の觀音と安置す衆寮に立像の觀音庚申阿彌陀等と安置す當寺境内の山林に旗塚笠松などいふあり

安昌寺

岩作村に在て久嶽山といふ白坂雲興寺末寺也創建の年月知られず天正十三年乙酉九月丹羽勘助氏次あらたに田地と寄附して再興を然るを寺説及府志に天正十三年丹羽勘助氏次創建之とあるは據かたし下に載たる氏次の寄附狀を見て當寺の古くよりあり來しさまを知へし天正再興の開基は雲山和尚也木佛坐像の釋伽と本尊とす開山堂



觀音堂禪堂鐘樓なとあり廢正法庵廢良心庵の本尊馬頭觀音庚申の像なとも當寺にあり又什物には寶永三年丙戌四月福富三郎右衛門親茂寄附の御床杣石銘并首塚銘一軸同四年丁亥九月當寺三世の住僧翠峯著述の長久手征伐記一軸同六年己丑正月赤林四郎右衛門信獅寄附の長久手由來記一軸正徳三年癸巳十二月鈴木新左衛門將番寄附の長久手物語一軸享保三年戊戌六月當寺の僧宗顯撰述の長久手征伐記明和九壬辰年人見彌右衛門黍赤林孫七郎信之の寄附の湫峽記なとあり又丹羽氏次の寄附狀あり曰

天正拾一年癸未之秋從國方前々山屋敷田畠寺領等悉有御闕所處々今度我等爲新寄進田地拾貫文目門前之小家三間右之分悉岩作安昌寺え令寄進者也此已後之未代不可有違乱也仍寄進狀如件 天正十三乙酉九月廿六日

岩作 安昌寺雲山和尚

丹羽勘助氏次花押

### 妙淵寺

野方村にありて龍蟠山といふ岩崎村妙仙寺の末寺也天正元癸酉年創建す本堂地藏菩薩を安置す境内に庚申堂觀音堂なともあり

### 寶珠寺

梅森村にありて梅森山といふ右同末也天正七己卯年僧泰公開基創建す本堂に釋迦如來と安置す境内に鎮守白山社庚申堂なとあり

### 了玄院

藤もりむらにありて田中山といふ春日井郡大永寺村大永寺の末寺也創建の年月知かたしされとも文明六年にみまかりし玄庵道了禪定門と中興開基とす此道了何人か知かたし十一面觀音と本尊とせり鎮守社あり

### 神藏寺

一色村にありて龍華山といふ參河國加茂郡矢並村醫王寺の末寺也創建の年月知かたしといへとも柴田源六勝重の在世に雲岫麟棟和尚を招請して相議り當寺を創建すといへり勝重は文龜三年癸亥七月二日みまかる由寺記に見えたり此人は柴田權六勝家の祖先なるへし客殿觀世音菩薩を安置す境内に藥師堂あり

### 全久寺

植田村にありて福田山といふ鳴海瑞泉寺の末なり文明年中に横地太郎左衛門秀綱建立すといへり釋伽佛を本尊とす境内に秋葉社あり當寺の末に光谷山山野寺といふあり



りて慶長年中廢寺となりて當寺是を掌る横地氏歴代の位牌又梶田七之助忠家肖像  
記文などあり

佛地院

八事村にありて陶金山といふ名古屋永林寺の末寺なり創建の年月また開基の人ら  
れず舊は臨濟派なりしが後に當派となれる年月も詳ならず僧日照を中興開祖とすも  
とい熟田の全隆寺末なりしを更て明和三年戊十二月永林寺に屬りといへり釋伽如來  
を本尊とす鎮守社もあり又寫本の大般若經二百卷はかりありて嘉祿文永などの年号  
見へたり

寶珠院

伊勝村にありて福聚山といふ御器所むら龍興寺の末寺也寛永年中創建す地藏菩薩を  
本尊とす庚申堂もあり

松林寺

丸山村にありて萬祈山といふ本寺上におなら慶長六年創建す藥師佛を本尊とす

桃巖寺

末もりむらにありて仙龍山といふ白坂雲興寺の末寺なり天文年中當所の城主織田武  
藏守信行其父備後守信秀の香花の道場として創建あり信秀の法名と前備州大守桃巖  
道見大禪定門といふゆゑに寺号とす信秀信行及柴田勝家の位牌あり當寺もはこの  
村中にありしを正徳四年今の地に移せり

月心寺

猪子石村にありて松嶽山といふ春日井郡大永寺村大永寺の末寺也創建の年月知りた  
し本堂に阿彌陀如來と安置す鎮守白山のやしろあり

光正院

古井村にありて玉龍山といふ岩崎妙仙寺の末なり永正十年創建す僧來鳳を開基とす  
本堂釋伽佛と本尊とを又正觀音を安置す地藏堂禪堂いなるのやしろ秋葉のやしろな  
どもあり

善久寺

同村にありて住龍山といふ同村光正院の末寺也創建の年月知がと僧一慶と開祖と  
す正觀音を本尊とせり又觀音堂禪堂白山社秋葉社又石佛の三十三觀音の堂などあり



菊泉寺

榮村にありて昌温山といふ名古屋永安寺の末寺也慶長二丁酉年僧交雲の創建也本尊十一面觀音と安置す境内に秋葉堂地藏堂觀音堂等あり

禪養寺

烏森村にありて天徳山といふ熱田の法持寺末也創建の年月知りたしといへども當寺往古の本尊觀世音の厨子の記文に康曆二庚申年營造之とありされば草創は康曆より已前なる事いふもさらなり天文二年に身まかれる悦山慶忻監院禪師を開基とす坐像の釋伽佛と本尊とす境内に觀音堂鎮守白山社秋葉社金毘羅社石像の地藏堂役行者堂などもあり又徳雲院殿心月電光大童子君の御廟所并母堂松林院殿の墓左近衛權少將松平出雲守源義昌君の御嫡男にて延寶六年戊午八月廿三日卒去ありて當寺に葬奉る松林院殿は副田勘左衛門源秀朝の女にて貞享五年戊辰六月八日みまゐりてここに葬るりくるゆゑによりて寛政十年午正月源明公より御祠堂御寄附ありて同十一年未五月大童子の御靈前へ御幼名知られす御佛具御膳器御位牌御厨子をはじめ非常御備の御提灯も御寄附ありさかくて文政十年亥十一月制止の榜ども建られたり又當寺の表門の

副田印齋が家門也とそ

光明院

岩塚村にありて見陽山といふ名古屋善篤寺の末寺也創建の年月知かたしもこの當所辻前といふ地にありしを寛永十三丙子年今の地に替たり本尊地藏菩薩を安置をまた禪堂秋葉堂などもあり

龍潭寺

野田村にありて醫王山といふ海東郡桂村廣濟寺の末也康正元年僧錦溪創建す立像の釋伽佛と本尊とし立像の文殊普賢と脇侍とを藥師堂秋葉堂鎮守白山社開山堂禪堂などあり

空雲寺

中島新田にありて道藏山といふ熱田法持寺の末寺なり延寶四年辰十二月僧空雲創立すもとは春日井郡大留村に善源寺といふ廢寺ありしを再興したる也創建の時瑞藏山といひしを明和七年今の山号に改む

日照寺



高畑むらにありて高畠山といふ熱田の全隆寺の末也創建年月知りたし中興の開山と日照孤峯禪師といふ大日如來を本尊とす鎮守のやしろあり文化十年酉三月よりはじめて尼僧地となれる始祖は當住の梅溪なり

天年寺

熱田新田にありて松翁山といふ海東郡稻葉村玉泉寺の末寺也延享元甲子年久田作左衛門漏邊休創建す本尊釋伽佛を安置す境内に秋葉堂あり

禪宗黃檗派

長福寺

猪子石村にありて紫磨山といふ山城國宇治萬福寺に屬り舊は觀音堂なり一を天和三年癸亥三月智多郡常滑村瀨木慈眼寺と此處に移して再興新造し今の名とす聞基の僧は名と千丈といふ本尊に千手觀音を安置と鎮守辨才天のやしろあり

眞聖寺

稻葉地村にありて藥王山といふ本寺上に同一享保十乙巳年に熱田の喜見寺なる吉祥坊とこゝに移して造立しかく名付たり本尊藥師の木佛と安置し觀音地藏を脇侍とす

淨土宗

祐福寺

祐福寺村にあり玉松山といふ京都西山光明寺東山禪林寺兩末寺也建久二年宇都宮頼綱入道蓮心の創建造營也其後多年の星霜を経て堂舍坊宇悉破壊せしかは嘉曆年中より復古再建の志と起しかども元弘建武の騷亂に障られ又年月を経たるに傍爾本村の加藤某法名空妙同人の壻小野田又近藤と左近將監長安入道阿願兩人本願主にて本堂講堂寶塔及諸坊浴室等まで再興造營す嘉慶二年戊辰二月造畢せり開基ハ達智賢了上人なり上人は天曆朝廷皇子具平親王十世孫後久我内大臣通基公の御子中院太政大臣源通雄公子也シケ幼年より母堂に隨ひ南都に住居十二歳にて園城寺に入て薙髮受戒せらるその後東國に下り吾妻の善道寺にて淨土宗に改宗し又美濃國稻葉山



下西、莊立政寺に至り智通上人に隨て附法相承し其後も又東國に遊歴せられたる折

しも此傍爾本村なる祐福寺再建の開祖此實了上人の時代頃は祐福寺むらはいまたなかりしか空妙阿

願兩居士の招請によりて專福寺に住居し堂坊造畢の後祐福寺に入院せられたり當時

の蘭生山といへりしを後に今の山号とすかくて後明應五年丙辰十一月朔日法住院、

大將軍家足利義澄公より御教書と給へり是の御祈願寺によりて甲乙人等の乱妨狼藉と停

止たまへるなり大永八年戊子五月後奈良天皇より勅願寺の倫旨を給へり勅使は左中

將經廣卿なり是より後一山の僧徒本寺に集會して大般若經を轉讀す

本堂本尊阿彌陀如来を安置せり 護摩堂 阿彌陀堂 開山堂 二重寶塔 十王堂 鐘樓 所化寮

茶所 勅使門 通用門 惣門 御車寄 馬つなぎ 牛つなぎ松 鎮守 白山社

寺領四十石元和六年九月朔日源敬公より給へるによりて御代々りくのこと一塔頭は

もと二十五院ありしが廢れて今殘れるの法性院 受徳院 大悟院 孝甘院の四院

のみ也當寺に開基上人實了自筆の往生禮讚私聚抄序分愚要抄などあり私聚抄第十卷の奥書に 干時嘉慶二

戊辰六月晦日於蘭生山本堂一校了實了房生年卅才能所卅余人 愚要抄奥書に上畧 私云於尾張愛智

郡鳴海莊内傍爾本蘭生山談議所以松燈火光夜半許書之干時至徳三丙午十二月廿六日 沙門實了生年卅二才

とあり此文に至徳三年にて實了上人卅二才といへるは年齢たがへり不審の外に諸名家古哥筆蹟等甚多し

### 東寶寺

櫻村にありて藥王山といふ祐福寺の末寺也創建の年月知かたし僧受圓を開祖とす受

圓の應永十九年寂す本尊藥師如來也

### 信正寺

高田村外養林寺新田にあり林西山といふ名古屋養林寺末なり創建の年月開基の僧と

### 安泰寺

もに知かたし 山崎村にあり寶珠山といふ櫻村東寶寺の末寺也創建の年月知られず顯朗僧と中興開

基とす本堂に阿彌陀佛を安置す境内に陀枳尼天タキニテンの社あり

### 誓願寺

同村にありて正覺山といふ櫻村東寶寺末なり弘治二丙辰年僧昌珍創建す本堂阿彌陀

### 善東寺

佛を安置す鎮守白山社あり 笠寺村にありて南方山といふ名古屋西蓮寺の末寺なり創建の年月知られず



善住守

本地村にありて法王山といふ建中寺の末寺なり弘安年中僧顯智創建し高田宗にて西光坊といひ一が慶安四年十月當宗に改め今の寺号とす本堂に阿彌陀佛と安置す鎮寺白山社秋葉社なともあり

光照寺

南野村にありて攝取山不捨院といふ建中寺末也往昔山田二郎重忠の創建にて顯正寺といひ高田宗なりしを慶安四年卯十月當宗に更め其とき寺号と改む開基の年月詳ならず本尊阿彌陀如來と安置す山田次郎重忠夫婦の木像二軀同人所持の指物掉一本あり境内に鎮守稻荷の社あり

正行寺

同村にありて稱名山といふ本寺上に同一山田次郎重忠の創建にて信樂寺といひ高田宗なりしが慶安四年卯十月當宗に改め今の寺号とす開基の年月知かたし本尊阿彌陀如來也又外に阿彌陀堂一字あり

觀音寺

中根村にありて北條山といふ名古屋性高院の末寺也性高院の塔頭稱名院開基僧方譽存公退隱の地にて慶長十年創建すといへりその後寛永十一年僧西譽存花再建す本堂に千手觀音と安置し客殿に阿彌陀佛と安置す鎮守八幡社境内にあり

誓願寺

なるまむらにありて來迎山といふ熱田正覺寺の末寺也天正元年癸酉三月創建す僧俊空を開基とす創建の願主は勝運院安西善心居士といふ本堂に安阿彌が作の阿彌陀佛を安置し脇侍に善導圓光兩大師と置く觀音堂普神社等境内にあり又惠心僧都の筆也といへる彌陀三尊の畫像とはしめ狩野正信筆の出山の釋伽の畫像其外名家の文書などあり

慈光寺

沓掛村にありて普照山といふ祐福寺の末寺也創建の年月知かたしとは祐徳院といひしと寛延元辰年今の寺号とす本堂に阿彌陀如來と安置す

圓福寺

同むらにありて正等山といふ右同末なり元龜二未年僧慶運造立す本堂に阿彌陀佛と



安置す境内に観音堂神明天王相殿の社あり

東光寺

部田村にありて醫王山といふ祐福寺村祐福寺末也天正十七五年僧朝空創建す本堂に薬師如來と安置す役行者の堂もあり

圓盛寺

傍爾本村にあり松境山といひ本寺上に同一永祿八年丑年僧見空造立す本堂に阿彌陀佛と安置す境内に庚申堂あり

観音寺

諸輪村にありて愚日山といふ本寺上におなじ創建の年月知られず本堂に阿彌陀佛を安置すまた観音堂一字あり

大應寺

岩崎村にありて松高山といふ名古屋西蓮寺の末寺なり創建の年月知かたしといへども永祿元年宗賀といふ僧の再建なりもとは誓願寺といひしと永祿三年今の寺号とす本堂に阿彌陀佛と安置す又境内に薬師堂金毘羅の社なとあり

浄土眞宗東派

安養寺

丸米野村にあり京都本願寺の直末也慶長元年僧浄通創建すもとは稻葉地村にありしを後此處に移せり

浄信寺

岩塚村にあり本山直末也創建の年月しりがたし

遍慶寺

同村にありて本山直叅也創建の年月詳ならき舊は海東郡萱津村七日市といふ地にありて原西堂といへりしを後こゝに移して今の寺号とす明應九年に身まかれる僧巧念と開基とすむかしは名古屋圓通寺の末なりしと享和元年より直叅となる

西福寺

御器所村にありて大澤山といふ本山直末也文龜年中僧正了熟田澤野にて建立せしと



天正の頃丸山村に移し其後又ここうつせり舊は眞言宗也とて更宗せり

正賢寺

下中村にありて本山直叅也創建の年月詳ならずとは天台宗也とて永正年中當宗とす僧乘念を開祖とす

圓龍寺

鳴海村にあり竹林山と号し本山直叅也創建の年月定かならず舊天台宗なりとて嘉禎年中善念當宗に更む其後善西を中興の開祖とす天台宗の時ハ龍坐の薬師を本尊とし善正寺といひしが後に今の寺号とせり往古ハ當村絶頂地といふ地なりしが永祿の頃兵火にありり花井屋敷といふ處に移して又元和七年川端といふ地に易地し寛永十年酉二月今の地に移す

東勝寺

高針村にあり本山直末也もとい天台宗にて傳忠坊といひしが當村の城主加藤勘三郎藤原信祥の弟同勘右衛門信睦入道祐傳屋敷地に移し天正三年宗門を更め今の寺号とす仍て祐傳と中興の開祖とす

淨蓮寺

相原村にありて本山直叅なり天正三年僧慶念創建すもとい高田宗なりとて享保十八年丑四月京都西本願寺末となり元文三年午十一月高田宗に歸宗し又寛延元年辰十月東派となる

西光寺

菱野村に在て大澤山といふ本山直叅也創建の年月知ケたし寶永二年再興すといへり

泉稱寺

植田村にありて本山直末也創建の年月知られき永祿の頃僧正順中興開基せり

徳本寺

四女子村にありて泰平山といふ本山直末也創建の年月知られきもとい天台宗にて泰平寺といひと長享二申年當宗にあらためて今の寺号とす

西雲寺

五軒家新田にありて中井山といふ本山直末也創建の年月知られき舊は高田宗なりしが寛延元年辰十月今の宗にあらたむ



善行寺

北一色村にありて安井山といふ參州針崎勝鬘寺末也もとは米野村にて普廣寺といふ禪寺也と文龜元年此村に移して眞藏坊と改む當所の領主祖父江隼人の志願にて隼人屋敷の南の方に再建したりと後に又今の地にうつせり

圓福寺

米野むらにあり北一色村善行寺の末なり天正六年僧海善創建す

祐正寺

二女子村にあり智多郡大野村光明寺の末寺なり延徳三年寅二月僧道圓開基創建す天正の頃までは専光坊といひと其後祐正寺と更たり寺傳に加藤清正の弟祐正創建すといへり

源通寺

五女子むらにありて清涼山といふ名古屋圓通寺の末寺也創建の年月知かたしといへとも僧長山建立すといへり寛永七年僧萬休再建す

願興寺

牛立村にありて尾頭山といふ參州野寺村本證寺の末寺也創建の年月知かたしといへとも往古は古渡村にありて鎮西八郎爲朝創建のよと傳へいへり又海東郡勝幡の城主織田備後守信秀居城を古渡村へ移さるゝ時今の如く牛立村に易地したりともいへり

長圓寺

中野村にありて海國山といふ參州勝鬘寺末寺なり創建の事知かたし

萬念寺

長良村にありて龜齡山といふ二女子村祐正寺末なり大永三年僧教傳創建す

覺圓寺

中島村にあり參州勝鬘寺末也創建の年月知かたし

西光寺

下中村にあり名古屋珉光院の末なり創建年月知られず明應年中僧壽山中興す

廣讚寺

稻葉地むらにありて松岡山といふ名古屋珉光院末なり創建の事知かたし

了通寺



同村にあり名古屋珉光院に屬り創建年月知られずいへは天台宗にて專藏坊といへり其後當宗に更てもなほ專藏坊といひと延寶五年己二月今の寺号とす

林高寺

岩塚村にあり參州野寺本證寺末也天文二十年圓藏坊中興せりもとい天台宗にて西光坊といひと永正年中改宗して今の寺号とせり

正雲寺

下之一色村にあり參州野寺本證寺の末寺也文祿二年僧正藏坊創建せり

盛福寺

高畑村にあり本寺上におなり創建の年月知かたし

蓮徳寺

あらこむらにありて本寺上に同一創建年月知かたしもとい天台宗なりとを文明六年當宗とす其節の圓頓院といひとを改宗のとき今の号とす

西生寺

小塚村にあり名古屋珉光院の末寺也とい西光坊といひて小林村に在ると後に丸米

野村に移し又天文元年こゝに移せりと今この寺号に改さる年月知かたし

眺景寺

梅森村にありて竹林山といふ參州佐々木上宮寺の末なり創建の年月知かたしもとい天台宗にて桃延坊といひとを天文二年今の地に移し同七年戊三月當宗に改む其時の本願主の當所の城主松平三藏の末子法名道西なり

光專寺

古井村にありて寶林山といふ知多郡大野村光明寺の末也文祿二年己六月加藤肥後守清正の弟加藤兵部少輔祐正創建す

西來寺

牛毛荒井村にありて小原山といふ參州勝鬘寺の末也天文年中に當郡鳴海むら小原といふ處にて僧淨源創建す後にこゝに移せる也

正福寺

沓掛村にあり參州野寺村本證寺の末也明應年中に僧慶順創建すもとい曹洞宗なりとを大永年中に當宗とす



性海寺

淺田村にありて照高山といふ名古屋東懸所に屬り延享五辰年創建す

高田宗

願隆寺

かすもりむらにありて紹光山といふ勢州一身田專修寺に屬りもとは淨土宗なりしが承應元年當宗となる

大圓寺

日比津村にありて鏡智山といふ右同末也創建の年月知かたしといへとも安貞の頃僧榮壽再興す往古の天台宗なり一ヶ安貞年中に佛光寺派にあらたむ其後慶安元年に當派となる舊は專正寺といひしを佛光寺派に改めたるとき傳來寺と改め又慶安元年に大信寺と改めしとさはりありて今の号とせり野尻氏の古石碑二基ありくはくは古城の部に記す

本泉寺

山口村にありて教春山といふ一身田末寺也弘安六年に山田三郎源泰親入道瀟賢是と創建すもとい今の地より三町計り南の方にありしと慶長十八年此處にうつせり此地はもと泰親入道居城の址なり本堂に慈覺大師の作といへる阿彌陀佛と安置す境内に太子堂鐘樓などあり又應仁元年書る畧縁起十二光佛繪像一幅親鸞上人筆 選擇集附屬の御影一幅願智上人筆 などもあり

淨泉寺

なるみむらにありて木林山といふ參州桑子村妙源寺の末也永享四年當處名主森山左近三郎創建し僧蓮乘を開基とす本堂に立像の阿彌陀佛を安置せり又寶林寺といへる塔頭あり

榮久寺

植田村にありて松雲山といふ鳴海村淨泉寺の末なり創建の年月知られず往古より榮久寺といふりしと延寶の頃榮休寺と書あやまりし事ありしにより文政十三年榮久寺と舊復せり



常照寺

長久手村にありて仙壽山といふ右同末寺也創建の年月知られず運慶が作といふ阿彌陀佛を本尊とす池田勝入池田紀伊守森武藏守等などの位牌あり

蓮教寺

高針村にありて法雲山といふ參州桑子妙源寺の末寺也長徳年中に源頼光創建にて惠心院權少僧都源信を開基とすといふ元來天台宗の大伽藍地なり一々承久の兵火に烏有となり漸く年月を経て永祿の頃當宗に改たるよしも寺傳にいふりもとは蓮藏院又は蓮華藏教院明眼寺勝藏坊など追々數号ととなへりかとも元和年中今の寺号としたりよしも也山号もこの高針山といひしと元和年中に今の如く一とりとを慈覺大師一刀三禮作佛の阿彌陀佛と本尊とす鎮守白山社あり此社の當寺五世の僧蓮勝の舍弟藏輪といふ僧生得多力にて平常武術を好みたりしが柴田勝家に隨ひ越前國丸岡庄にて度々軍功ありき法師武者ゆゑに佛家隨一の器財なる大鐘の形と定紋としたるによりて織田信長公より大鐘といふ稱号と給り大鐘藤八と名のりけりかの藤八老年に及び此村に歸り住ぬ加賀國にて白山社を常に信仰せしによりて此處にも勸請し奉り

て當寺の鎮守と崇敬せしとを長久手御陣の時家康公この白山の社地へもならせられたるよしにて其御舊跡に御腰掛松といふ大樹今に繁茂せり又永正三年十一月十五日とかける今川氏親の制札あり四脚門前に文政九年御制札も建られたりもとは當寺同村二本木といふ地也しを慶長の頃坤の方うつゝ正徳六年今の地に移せり又塔頭一字あり梵音寺と云紫金古佛の阿彌陀如來を本尊とせり

萬福寺

鳴海村にありて三井山といふ右同本寺也永享二成年三井右近大夫高行創建す本堂に阿彌陀如來と安置す

幸蓮寺

本地村にありて白色山といふ鳴海村萬福寺の末也舊の萬福寺境内にありて蓮乘坊といひしを元祿十一年寅八月此處に移して今の号とす本堂の本尊阿彌陀如來と安置す

海隣寺

同村にありて清涼山といふ右同本寺也僧道言と開基とす道言は文明中の人也

常德寺



南野むらにありて法輪山といふ本寺前に同じ下野國芳賀郡高田宗專修寺三世顯智上人造立のよし也文龜の頃身まかれる衆誓を中興開基とす聖德太子御作といへる阿彌陀如來と本尊とす鐘樓もあり

明德寺

下社村にありて正眺山といふ高針村蓮教寺の末也慶長元年申三月僧淨泉創建す本堂に阿彌陀佛と安置す

宗延寺

北熊村にありて東申山と云山口村本泉寺の末也創建年月詳ならず境内に庚申堂あり

教圓寺

岩作村にありて東砂山といふ赤津むら萬德寺の末寺也創建の年月定かなら頭を塔一宇あり松原寺といふ

日蓮宗

定徳寺

日比津村にありて長秋山といふ海東郡上萱津村妙勝寺末也延文五年庚子八月僧日棟開基建立す其後明德三年壬申八月第二世僧日就本堂と建立せり本堂祖師堂番神堂天神の社いなるのやしろなどあり

長傳寺

法華村にありて學立山といふ名古屋妙蓮寺の末也創建の年月知かたし

妙傳寺

同村にありて清長山といふ熱田本遠寺末なり創建の年月知かたし

常泉寺

上中村にありて太閤山といふ妙勝寺末也慶長年中に創建せしと元祿年中に再建して今の如くなれり寺寶種々あり太閤屋敷の條にくはしくいへりあはせ見るへし

妙行寺

同村にありて正悦山といふ本寺上に同じ創建の年月詳ならず寺寶に清正畫像一幅同東帶の畫像肥後國本妙寺より納む清正記一部秀吉公の書翰清正自筆の古歌をはじめ書畫茶釜など

肥後國本妙寺

四十九

肥後國本妙寺

四十九



多くあり

堂宇之部

**薬師堂** 古井村八幡社の西の方にあり同村善久寺是を掌る  
**観音堂** 相原むらにあり  
**阿彌陀堂** 赤池村にあり  
**観音堂** 露橋村にあり  
**観音堂** 牛立むらにあり  
**弘法大師堂** 神宮寺新田にあり  
**観音堂** 猪子石村にあり  
**十王堂** 下社村にあり同村明德寺掌る  
**阿彌陀堂** 淺田むらにあり  
**庚申堂** 八事むらにあり  
**観音堂** 八事村にあり熱田全隆寺扣なり  
**湯浴地藏堂** 山崎村にあり同村地藏院扣也  
**地藏堂** 御器所にあり  
**薬師堂** 島田村にあり  
**大日堂** 梅もりむらにあり  
**庚申堂** 北熊むらにあり  
**観音堂** 大草村にあり同村修驗三光院掌る  
**石地藏堂** 岩作村にあり  
**阿彌陀堂** 並野方むらにあり  
**阿彌陀堂** 庚申堂 行者堂 並米之木村にあり  
**庚申堂** 行者堂 並もろむむらにあり  
**薬**  
**師堂** 地藏堂 並侍爾本村にあり  
**十王堂** 祐福寺村にあり  
**地藏堂** 藤もりむらにあり  
**薬師堂** 長久手村にあり  
**薬師堂** 岩作村にあり  
**柳性堂** 庚申堂 ともにも本地村にあり  
**庚申堂** 観音堂 並ひし野村にあり  
**庚申堂** 薬師堂 二所 行者

**堂** 寂照庵 湛然堂 以上ともにも鳴海むらにあり  
**地藏堂** 香掛村二村山にあり半折の石地藏に大同二と彫付たり二村山の部にくはしくいへり  
**薬師堂**  
**地藏堂** 並さくらむらにあり  
**行者堂** 笠寺村にあり  
**十王堂** 本地むらにあり  
**行者堂** 阿彌陀堂 みな南野村にあり  
**地藏堂** 牛毛荒井村にあり  
**地藏堂** 大秋むらにあり  
**石地藏堂** 中野高畑村にあり  
**薬師堂** ともにも上中村にあり  
**薬師堂** 下なかむらにあり  
**石像観音堂** 石の地藏堂 並稻葉地村にあり  
**薬師堂** 岩塚むらにあり  
**観音堂** 二所 中島新田にあり  
**観音堂** 八田村にあり  
**石地藏堂** 弘法大師堂 並打出村にあり  
**阿彌陀堂** 下之一色村にあり當堂はもと當村の城主前田與十郎建立にて當郡横井村高野宮境内にありしを天保二年卯十月此地に移したり  
**石地藏堂** 四所 あらこむらにあり  
**石観音堂** ともにも万町村にあり  
**薬師堂** 本郷村にあり  
**観音堂** 名古屋新田うち少渡といふ地にあり  
**薬師堂** 小塚村にあり  
**観音堂**

陸墓

白鳥陵 二所

一處は熱田はたや町西國浮山といふ地にあり一處は熱田白鳥山法持寺境内にありともにもくはしく熱田



の部にいへり合せ見るへし

### 將門塚

熱田にあり所縁定りならず相馬將門伏誅のとき其首をこゝに埋みたる由の傳説あるは心得かたし神輿を星崎に出し奉りて將門伏誅の御祈禱の事ありて彼處に調伏塚といふありこゝも其時の一般の遺蹟ならむか

### 爲朝塚

古渡村泰雲寺中にあり府志曰里老傳曰鎮西八郎爲朝住此開森祠官及鬼頭氏家傳言之然爲朝配流伊豆大島見誅安得葬于此地附會之說多不足據按爲朝嫡子義實隱尾張國知多郡其孫市部太郎義季居尾張國市部庄而古渡村隸市部庄則恐誤以爲爲朝在此地耳牛立村願興寺傳又曰爲朝子曰義次住古渡村按爲朝有四男一女無名義次者亦附會之說也といはれたるはまことにさる事にて市部太郎義季の古墳を爲朝塚といひならへるならむか又鬼頭家傳に見えたる義次も爲朝系圖に見えず心得かたし

### 白山社地の古墳

東田町にあり白山社地是也此地正しき古山陵也誰といふ事しられねど今も猶山陵の形勢混ふへくもあらず陵域廣く南面なり廻に池形残れり尾張氏貴族のならむか傳記なければ知へきよしなし是はいと

### 八幡山古墳

上古のにて中世以後戰國の古墳などの類にわらず正しき山陵ともしられ世となりて白山社を勧請したるものなるへし此陵より埴輪とて甕の如きもの掘出る事あり埴輪といふものは書紀垂仁紀に見えて御陵の廻りに埋みし事彼記にくはし

御器所村にありこは白山の山陵とは異にして形丸し

### 茶臼塚

古井の南にあり是は其さまによりて名つけたる也此例諸國に多し

### 信秀塚

末森村にあり府志に俗謂之廟山則織田備後守信秀之墓也といへりされども信秀は萬松寺に葬れるよし舊記に見ゆればこゝは埋葬の地にはあるへからず

### 聖人塚

野方村にあまいにしへ比丘入定の地也といへり其名しられす

### 勝入塚

長久手村にあり天正十二年四月九日池田紀伊守信輝入道勝入戰死の地なり事は古戰場の部にくはし

### 勝九郎塚

の部にくはし



武藏塚

同所にあり勝入の嫡子紀伊守之助戦死の墓也勝九郎は初名也  
同所にあり池田父子と同時に戦死したる森武藏守長可或は長一の墓也

首塚

岩作村安昌寺門前にあり是は天正十二年四月長久手合戦の時戦死の首どもをわつめて安昌寺雲山和尚  
廻向ありけるよし傳へいへり

大塚

本地村にあり前田といふ地也其故知られず

十三塚

沓掛村にあり古驛路の傍也府志に不知其所由今爲狐狸窟といへる如し

神輿塚 將門調伏塚

二處共に星崎本地村にあり是は將門謀逆の時熱田の神輿をこゝにふり出奉りて追伐祈禱ありし遺蹟也

愛智塚

戸部村にあり是愛智助左衛門遠祖歴世の墓所也

長塚

高田村にあり東西三十四間計南北十一間はかりあり是正しく千年已上の古墳なり

蛇塚

同村にあり里老傳云昔此地は大河の深淵にて大蛇ありけるが折節淵より出て牛馬を取て食けり其處を  
今世に牛卷といふ里人平常に此事をうれひあへれといかにともせむすへしらす時に熱田祠官に大原の  
真人某といふ人弓にて此大蛇を射殺しぬさて其蛇を埋たる此塚なりといへり

劍塚

本井戸田村にあり是は柏谷藤太信重といふ武士あり此處に住しが舊は知多郡の人也後此村にすゆりとそ身まかれる後其鎧冑  
佩劍などを埋るなりとそ

粕谷塚

同處にあり是粕谷信重が墓也と云々

師高塚

同處にあり府志云田間有三塚一里人相傳師高師平師親墓也按源平盛衰記加賀守師高其弟左衛門尉師平  
平左衛門尉師親因山門叡訴配流於尾張國井戸田其後師高父西光法師謀計平家事露伏誅詔誅師  
高師高母馳使告之時師高觀漁於川邊擁妓奏樂聞其報走獵同國蚊野官兵追擊之兄弟三人戰  
死鼻首於河崖棄屍於河原堂津驛遊女常與師高相狎請僧葬之不知葬何處然今觀三塚在



姫塚

田間一壘々相望土人不<sub>レ</sub>敢<sub>レ</sub>荏除<sub>二</sub>從<sub>一</sub>土人之説<sub>二</sub>錄<sub>一</sub>于此<sub>二</sub>と云り

御器所村淨元寺境内にあり故縁知かたし

一本松古墳

同村にあり是も上古のなり墳上に古松一株あり故に一本松といふ

鬼塚

夜啼塚 手切塚

三所ともに本願寺村にあり

高塚

高須賀村にあり是此村の名の起る處也須賀は塚の訛にて尾州郷音<sub>二</sub>呼<sub>レ</sub>塚爲<sub>二</sub>須賀<sub>一</sub>蓋訛也梅須賀蜂須賀<sub>二</sub>類也<sub>一</sub>と府志にいへりすへて高塚大塚などいふは並上古の正しき墓とも也

高田東古墳

高田むらにあり東の方山<sub>二</sub>寺<sub>一</sub>と呼地是也今は名古屋長榮寺隱居所となれり山内古墳の境域東西十五間南北廿二間ばかりあり是はかの上古の正しき古墳にて擬山陵ともいひつべきさま也此墓よりも埴輪を掘出せる事ありといへり此墳の南北に古墳二處あり是は此擬山陵よりは殊に小さけれども他處のよりは正しき形残り

地藏塚

大森村にあり古松一株ありて古石の地藏の像あり府志に里老傳云昔有<sub>二</sub>大道法師<sub>一</sub>大徳之僧也葬<sub>二</sub>于此<sub>一</sub>所請有<sub>レ</sub>驗猶呼<sub>二</sub>其地<sub>一</sub>曰<sub>二</sub>寺山<sub>一</sub>按往時有<sub>レ</sub>寺後世廢矣牛立村願興寺傳曰大道法師者願興寺僧有<sub>二</sub>勢力<sub>一</sub>捕<sub>二</sub>妖鬼<sub>一</sub>是附<sub>二</sub>道場法師故事<sub>一</sub>恐不足<sub>レ</sub>據今觀<sub>二</sub>其像<sub>一</sub>似<sub>二</sub>地藏<sub>一</sub>而非也按此地古爲<sub>二</sub>上野之路<sub>一</sub>則疑是道祖神之像後人彫刻爲<sub>二</sub>地藏<sub>一</sub>耳といへるはさる事也されども願興寺の傳に大道法師といへるは即道場法師の訛にて勢力ありける事など附會とはいひかたし又此處はもと古渡より程遠がらぬわたりなれば道場法師の古墓を寺山といひ來れるならむも計りかたし此地藏を道祖神の像といはれたるはまことにさる事にてもとは然ありけむを地藏に彫刻したる事はうたがひなかるへし

大塚

赤塚 淨知房塚 白山塚 二位殿塚 千鳥塚 起請塚 きつね塚 栗塚

祐傳塚

以上十所はみな鳴海むらにあり

徳願塚

笠寺村にあり是はむかし此村に火災ありける折しも行脚の僧郷内に休息し居たるを里人疑ひわやしまて放火せし由を公訴に及びて彼僧殺されたり然れども此僧の所爲ならざりければ亡靈いたく怒てさましく崇ける事ありしかはかく塚を築てかの亡靈を吊へる也徳願は其僧の名なりとぞ



古戰場

長湫の古戰場

長久手村岩崎村など皆其跡也ともく此戦は平内大臣信雄公ときこえしが伊勢の國桑名郡長島といふ處に城をかまへて住れし頃其家をさ伊勢の松島の津川玄蕃允尾張の星崎の岡田長門守同國刈安賀の淺井田宮丸はいさみたけびたるものゝふなましがひろかに豊臣秀吉公に心をよせ我つかへまつれる君をうしなはむとする企あるよしさがなきものゝ信雄大臣に告知らす事ありしかは大臣いたく憤り天正十二年彌生の三日かの三人を長島の城内にめしよせとのゝ人に仰せてなさけなくうしなはれしかは豊の大臣は是をわはれみ且平のおどいをうらみおもはれけりさる事の起りより信雄秀吉の御なからひ心よからぬさまになりもき終に此軍に及へりさかくて秀吉の大臣多くの兵を引つれて難波の城を出られしよし聞えければ信雄のおどいは其知せる伊勢尾張のつはものはかりにては少勢にて敵の多きにむかひ戦かたくや思はれけむ近き國々の名たる人々に加勢を乞はれけるに美濃の大垣の池田信輝入道又其鐔たる同國兼山の森武藏守長可などは信雄の父信長の大臣に久しく仕へ親しみ厚き士ともなれといかなる故かありけむをむきて豊臣のおどいの方に参りぬ参河の岡崎にましくし家康公のみ獨かよわき信雄の大臣をたすけて軍發し給へりかくて信雄の大臣の家をさの老臣といはれし中川勘右衛門が犬山の城は入道勝入が策によりてすみやかに攻とられ樂田羽黒等のたゝかひはげしかりければ

信雄の大臣家康公とかたらひ合せ三月十五日清須の城よりうち出小牧山に至り給ひ山の麓の圍み堀堀等の固めを厚くし給ひけり豊臣のおどいは十二万五千騎といふ多くの軍どもを卒て同しやよひの廿七日犬山の城に至り軍の様をはかり合されけるに森池田の朝臣等さきに徳川どのゝ家の子らと戦ひまけし事ありし其うらみの残りてやありけむいかにもしてこたびは目さましき軍していさを立むと思ひ巡りしけるが徳川殿の参河遠江の家の子等日を追てはせ参り小牧山には人の數加はりぬと覺えたりかくてはせめどらむ事やすかるまし彼おどいのしらせる参河の國內は定めてしめやかに人少なるへしひそかに彼國に軍兵をつかはし民どもをおびやかし家居に火をかけ岡崎の城を攻どりなは徳川どのゝ軍ども小牧にどいまりあへせひたふるにいとぎて國に歸り其わざはひを禦ぐへし其ついでにのりて小牧をせめ給ひなはかならず君のみいくさ勝なむものぞ何がしら彼國に迎ひ候らはむと池田森言葉をそろへて申しかは大臣いがゝとはあやふまれければ軍の謀にはさることむりの習ひもある事なればやがてうべなひ勝入父子森らの人々に参河へ裏切すへきよしをぞ仰られけるかゝりければ卯月六日の夜なかばかりに營を出立入道おや子森むさしの守堀久太郎秀治など三好秀次主を惣大將にて二万八千騎といふ多くのいくさとも篠木柏井のあたり三里あまりにみちくしてすさまなく陣どりけり篠木の庄の土民郷士等はみな秀吉の大臣につきたりけるが其うち龍泉寺山の下なる下津尾村の民どもはさはなくして多くの軍等が寺の地を皆とし堂塔を焼拂はむとするを憂へかなしみ本尊の観音のみかたを地の下に掘うづみて軍のある様を徳川殿より小幡の城に居へ置れし本多豊後守廣高のつてをもて小牧山に参



り訴へしかは石黒助七をもの見につかはされ敵のあるやうを見せしめ又訴へのまことらごとをたゝ  
させ給ひけるに八日の朝石黒歸り来て入道父子を先手にて三万ばかりの敵とも參河路をさしてはせ行  
なる下津尾シヅノのものが申すにたかふ事なしと啓しければ訴へに來しものを厚く褒祿給ひなどしてひそか  
に御馬出あらむと諸軍へつけしらせ給へりまづ大須賀五郎左衛門康高榊原小平太康政本多彦次郎康重  
水野宗兵衛忠重岡部彌二郎長盛丹羽勘助氏次等御先に廻り脇道より小幡の方へはせ向ひ敵軍に追ひつ  
きなは横合より合戦まじりをはしむへしと仰られ御留主居には酒井左衛門尉忠次石川伯耆守數正本多平八郎  
忠勝の三人に尾張の兵士三千を添て殘し置同し夜信雄の大臣ととも忍ひて小牧山を出給ひぬ御旗本  
には井伊の万千代を見をなへとし内藤四郎左衛門高木主水を軍の奉行篁勘兵衛渡邊半十郎を御はた奉  
行石黒善九郎を道しるべの役にさだめ給ひまづか六千騎計にて小牧より一久田村豊場村如意村を過さ  
せ給ひ勝川村に至りしはらく御馬をどめていこはせ給ひぬ石黒善九郎御湯濱の飯をさげけるに所  
の名を尋ねたまひければ勝川と申よし啓しつるを聞給ひされ軍のかどでは吉兆きちしやうなる里の名也と覺  
はせ給ひ小幡の本多康高が居城をさしてすませ給ひぬ三好の秀次ぬしは先手よりは一里ばかりもか  
くれて九日の朝稻葉村の山の手白山林といふ處にて暫く馬の足をやすめかれいひくひなどせられける  
を彼大須賀等の御先手の三千餘騎猪子石原より敵軍の跡へまはり大森稻葉の兩村の小松原に打掛り多  
くの足輕どもを出して鐵炮を嚴しくうたせければ秀次主の手の者どもさわき立備へもちりくんに乱れ  
て既にあやうく思はれければ旗もと先手の兵を引つれ長久手の高根山に走のほり備を立られしかども

ふせき戦ひかたくして軍卒多く討とられ忽に敗れまどへり堀の秀治はこの高根山よりは十町あまり先  
なる香流山カウロウの三社の宮にひかへてありけるに過來し跡の列にてたゝかひをはとめしよし聞く其家をさ  
堀監物を立歸らせて其様を見せけるが秀次主の軍みたれ立たる最中にて監物も大須賀がどもからにち  
ち圍まれ危き所をからうして切ぬけり大須賀等の諸軍一手にあつまり備へを揃へて攻かり花々し  
くたゝかひければ敵方にも秀次主の旗本天野權太夫牧主馬吉田修理亮ら是を禦き身を碎きてはたらき  
御方の士卒をあまた討とりけれども得ふせがすして全く敗軍となりぬ秀次主も馬を乗放し歩立とな  
りて可兒才藏がのりたる馬を我に借せといはれけるを才藏きかぬふりして雨降の傘今さへげては合戦  
なりかたしとつふやきながら迹のさければかるうして木下勘解由が乗たる馬をこひどりそれにうちの  
り吉田修理亮等まづか七八人をめしつれ槍が嶽ツテと高根山のわはひを新居村の方へを落のびられける丹  
羽勘助氏次が岩崎の城は氏次小牧山に參りし留主にて其弟二郎三郎氏重としわかなれどたけくかして  
くして親族の加藤太郎右衛門等とも守りけるが池田がどもがら參河國に裏ぎりして働くよしはの  
きゝて三河にもさゝする道はかれこれ多かれどもし此城の下なる道に來りなは安々とは通すまし爰に  
さまたけたちもどほらせ時を移しなは其間に小牧山より御でだてあるへしとかたらひ合せて待居ける  
に九日の明がたの程池田森の先手こゝもに通るかゝりしかは城のうちより鐵砲を打かけ鎗長刀にて  
うち出むとす池田の一番備へ伊木清兵衛二番備へ片桐半右衛門四千騎あまりにて城を取巻攻たてける  
を城のうちよりも切て出多くの敵と戦ひけれどもより人少にてふせき得ず氏重をはしめ残り少なく



討とられぬ片桐伊木がどもが氏重等が首を宇牛が原にて池田父子の實檢に備へければ軍の手始めよしと悦び居ける處にうしろの方にたゝかひ有て既に秀次ぬしまけ給ひぬるよし田中久兵衛馳來りて告しかは池田森等うち驚きいさ引返して一軍せんと士卒をひきゐて長久手の佛か根の平山の東南に谷を隔て陣取り堀秀治もかの三社の宮より引返しけるが三好かたの落武者を追討せし徳川家の軍兵をさまたけはけしく鐵砲を放ちければ得追つめせしばしどゝまりけるを堀が手のものども手あらくあたりこゝにて徳川家の士卒多く討とられぬ家康公は色々根富士ヶ根のあたりより此やうをよく見給ひて井伊その外の人々とはかりことをめくらし敵の不意をうち給ひける御旗本より鳥居金次郎平松金次郎敵の方より仙田主水山田八郎右衛門はせ出鎗を合せけるをはしめとして互にうちうたれ火花をちらして戦けるが御旗本又井伊の手より百二百と數を盡し鐵砲をはけしく打かけ金の扇の御馬印を立られつるが朝日の出るが如く崖脇よりかゝやき出たり池田方の諸軍是を見てすは徳川殿こそこゝにおはしけれとて驚き立てさわさけるよりまけ足をふみそめ備へもしどろに乱れけるを森長可士卒をはげまし徳川どのゝ旗もどの右の手薄く見えたるぞそれへ廻りて戦へと自ら馬を乗まはし采配取て御本陣の南の方を駈立ける折しも井伊の家の子熊井半右衛門が預りの足輕柏原與兵衛が放ちし鐵砲に武藏守長可眉間をうちぬかれ忽馬より落けるを本多八藏駈付首討とりていみじき高名をと取たりけるこの度の軍には首數多くとりたりともいさをならす只はたらきをもて賞せらるへきむねかねて軍令ありしかは八藏鼻をそきとりさすがを添て懐に入置けるが信雄のおどりの歩卒にさゝれてありつる清須の職人が此さ

すがを見て是まさしくこそ秋むさしのかうのどのゝあつらへにて何がしがうちてさゝげしすが也といひければ八藏さは彼どのゝ首也けりといそさかして立歸りかはねをたつねけれども是彼と紛らはしくなりてけぢめ見えざりければ似合しき首打取て是と長可の首也とて實檢に備へしかは信雄のおどりの家の子に長可としたしきものありてよく知りたるがあらぬ首也といひければ八藏はわはつけきあやまちしいてゝおもてふせやる方なかりしとそされどもおどりはこよなきいさはなりとほめ給へり池田方の黒母衣二十騎の一つらは佛が嶽の阿池堤へ押出してすゝみたるを榊原大須賀等のみさふらひ又井伊の手のさふらひら森が残り卒を追ちらし阿池の南より突かゝり攻ふせければ黒ぼろがどもがら多く射とられければ森の手にありし秋田嘉兵衛梶浦兵七郎片桐與三郎竹村小平太等池田の手に加はりければ入道是に力を得て踏とゝまり戦ひけれども御はたもとより惣軍一手になりて突ふせつるするとき鋒先にかの加はりたる秋田が徒も残りなく射とられ敵がたちりくになりて一騎立のことく乱れ立て大將の仰もさゝ入れす備へもまばらになりけるを徳川殿すはまゝなりと仰ふれば兵共信雄のおどりのものどもと引わかれて横合より突かゝりければ勝入今はかなはじとや思はれけむ田尻といふ處に踏止り手つから鎗をより廻し馬けふりをたてゝ目さましく働かれけれども安藤彦兵衛に突伏られあへなく馬より落られしを永井傳八郎駈付終に首をう取たりける入道の子息紀伊守之助も父にかくれじとて向ふ敵二三騎切倒し頭はさまといふ處にて同し安藤に射とられける父も子もこよなき猛勇の長將にて今はの戦ひにもむかし今に抜出たるはたらき也と御旗本の人々何れも感しあへりしと



そかくて敵將うち死のうへは殘卒をあなからに退へからずと仰せ給ひければ諸軍一列に御側を纏ひ頭はさまの西の方なる平地にて首實檢あらせられゆるく小幡の城に歸り給ひけり凡敵の首とりたる三千餘味方わつかに三百十人あまうたれしとを秀吉のおどい此よし聞給ひさればぞ入道に敵をな必あなどりをまはらかけすなど再三度もさとし教へつるにそを用ひすしてかゝるまけいくさをし出つる口惜き事よとていたくいきまき給ひけりいで入道等が吊ひ軍して彼ふたりの大臣らが首うちどらでやはかくへきとて同し九日の夕つかた三万騎を卒して樂田の營をうち出大草村を経て進まれけるに小牧山の留主居にありける酒井本多なむと此馬出をさして心もどなく思ひければ酒井に留主をかたく守らせ置本多ひとり急きて出たち長久手へ参りけるが士卒わつかに三百人はかり召つれ春日井原にて豊臣のおどいの群かりたる軍に行合せけれどもかの多くの軍等を事どもせず恐るゝけもなく行ちかひて先立すゝみければ大臣あやしまれつはものに命して姓名を尋ねられけるに本多平八郎と高やかに名のりて打過けるされはこそ聞つる勇士也けれと大臣感じられけりとそ大臣は龍泉寺の方へ平八郎は小幡の方へと別れけるがやがてかの城に参りて御勝軍をはぎ奉り豊臣のおどいの龍泉寺へ至られしよしも告まゐらせしかは猶も軍の謀をかたらひ合せ給ひ其夜ひそかに小幡をうちたち比良村にかゝりて小牧山に歸りつかせ給ひければ秀吉のおどいあくるあした龍泉寺よりうち出いたくたゝかひなは勝軍疑なしといさみてあられける手筈みな違ひてはしたなく樂田に歸られけるがゆくりなきまけ軍しつとかへすがへすもつぶやかれける又諸將にむかひて頼にも畏にもかゝらぬ家康かなと仰ありけるとぞ或は家康は

花も實もある大將也と感心せられしともいへり凡此合戦の事をしるしたるもの少からず御年譜御年譜附尾參河物語家忠日記慶長創業錄難波創業錄當代記等官庫の秘書をはしめ豊鑑太閤記甲申戰圖記松平記參河記烈祖成蹟等其外諸家の系圖聞書覺書など百餘部の實錄どもにのせたるをくはしく詳らかに論しるさむには事多く文繁くして數卷に及へければ今それらの中の書どもよりよろしどおはゆる正しき傳へをのみわり出あらくこゝに記す扱此御合戦は徳川公御むねに叶はせられし御軍なれば其地理の遠近等を尾陽雜記によりて記せる也

蟹清水 岩也小牧山より蟹清水へ九町巳の方蟹清水の北へ續きに屋敷形あり東西四十六間南北六十一間北西に堀中九尺かきあげ土居高七尺東は今の小牧の町裏云々 外山村 岩也小牧より外山村岩まで廿八丁十二

四方の土居 宇多津岩 小牧より宇多津まで廿八町十二間戊の方云々以上蟹清水外山宇多 小牧より犬山へ二里廿五町四十

二間子の方 小牧より樂田村岩迄一里十町四十八間丑の方にあり 小牧より羽黒村へ一里卅一町四十四間子丑の方にあたる 但し丑に近し 小牧より二重堀村まで十七町卯の方 小牧より小松寺山岩まで卅二町五十

間丑寅の方にあたる 小牧より久保村岩まで一里五十二町五間丑の方 府志には一里五町 小牧より岩崎山へ

十八町二十間丑の方 小牧より青塚へ卅四町五十七間子の方 小牧より田中村岩址へ廿一町余寅卯の方

小牧より小口村一里九町四十間余子の方 岩屋敷駐在 小牧より勝川まで宇多津道筋二里十一町四十三間

小牧より勝川まで岡山道筋一里廿九町三十六間 小牧より豊場村如意村へかゝり勝川迄二里廿一町四十

九間家康公此道筋を勝川へ御出 宇多津岡山の岡道は皆敵陣へ見へ此 小牧より小幡村へ三里五町廿五間 小牧よ

道筋は敵陣へ見へ不申候地形事し



り岩倉へ一里申の方也 小牧より清須へ三里末の方也 樂田より野田へ三里十八町小牧山より二里九町也 樂田より龍泉寺山へ三里拾九町小牧山より二里八町 樂田より志段見へ三里廿三町小牧山より二里三十五町 野田村より稻葉村まで一里廿町也 志段見村より稻葉村迄一里十町 小幡より稻葉まで一里十九町五十間 白山ばやし山高十間東西へ七町四十間南北へ三町三十間 勝川より小幡まで廿九町四十二間 龍泉寺より小幡古城へ十八町 龍泉寺より岩作村迄一里廿八町十間 猪子石より小幡まで十六町五十間 小幡より岩作まで一里廿六町四十間 大森村より岩作まで一里五町四十間 勝川よりかなれ川迄一里卅三町 香流川より長久手へ廿町廿間 かなれ川より岩作村まで廿三町廿間 岩作村の北色金山直高十一間 岩作枝郷多く出来今は色金の産まで民家これありといへども本村は色金山より四五町も間あり本村より色金山は五の方に當り色金山南面に家康公御腰掛られ候よし申傳ふる石有之里人御將机石と号す 色か根山より富士が根山へ十一町未申の方なり 色金山より佛か根午末の方近し 未に 富士かねより佛かねへ三町余り巳の方にあたる 長久手村は富士か根山より二町十間西の方 富士か根山より白山林は亥の方也 色金山よりは白山林は戌にあたる 富士か根直高十一間 佛か根直高六間 前山直高五間 井位直政備山より池田勝入塚は貳町五十三間卯の方也 森武藏守塚より勝入塚迄三町七間 勝入塚より庄九郎塚まで一町四十二間 武藏守塚より庄九郎塚まで二町三十五間 長久手より愛智郡岩崎まで一里四町 長久手よりうぎうが原迄廿七町四十四間うぎうが原より岩崎へ十二町十六間也 長久手御合戦の時分池田森等岩崎の城を築たりうぎうが原にて首實證これありしよし申傳ふ 岩崎より參州岡崎まで六里

宅 址

御所屋敷

御器所村のうち東脇といふ處にあり龍興寺池の南宗圓寺の東の方に屬る地なり境域畠及民家となりて家數十軒あり府志に俗傳に持萩中納言宅址也持萩氏は何人を知らずといへるはさる事也又白華隨筆に天野信秋 天正記を按するに秀吉の母公は持萩の中納言といふ人の息女也尾張國飛保の村雲といふ處に國筆也 配せらる 大政所二歳のときと云々 なかめやる都の月にむら雲のかゝるをまひもうさ世なりけりとよまれしとかや其後上洛 大政所もともに上京し禁中に仕へ其後尾州に下る云々 按るにもちはぎの稱号誤字かいかしきして名をしるさいれば誰といふ事をしらす本州羽栗郡村雲の里なし和名抄にいはいゆる村國郷今は村久野といふ飛保に隣りて東の方也中頃は村雲と稱せし歟又は他所の人傳聞の誤にや但し歌に村雲とよみけるは其頃の村号なるにやといへりこの村雲中頃村雲とよなへし村号なるにはわらす村久野を村雲と聞誤るよりかくよめるなるへし他州の人のかゝる傳聞の誤はまゝある事也 村久野ハ村國の轉訛にて正しきと云へにはあらはれどちかき世より呼るにもあらす飛保村受降寺祇園元年十一月十三日得る歴文に當國村久野庄大督曾米事云々とあるをいぬ文和康廣等の文書とを村久野と云りもとは和名抄に樂保郡村國と見は民部省圖輿にも樂保郡村國公殿一千撥伯二拾束有餘云々と見はたる遊地名のうつりかはりたる也今は村久野と前飛保と二村に村久野莊名残り 尻に天瑞寺大政所 秀吉公母公 尾州愛智郡御器所村人也と見えたるにこの御器所村の古老傳説に太閤秀吉公の母堂は此御器所屋敷に住居給ひて此處にて秀吉公をうみ給ひけりさるもゑに御所屋敷といふよし



この村長にへり 按るに秀吉公の此處にて生れ給へりといふ説はうの公の事蹟を記る豊隆及太閤記豊吉記を以しむ普通の説に  
はさきく見はす皆中村出生のよーいへるにつきて世にはさのみ心得たれど其實は此地なりけむも知へからず又秀  
吉公の宣へる詞に我母まかき時内裡の御厨子所の下女たりしがゆくりなく玉味に近つき奉りし事ありて我を懐胎しむとのたまへるよし  
松永貞徳の撰る戦風記に見はたるにつきて岡田啓撥按するに其時の朝廷後奈良天皇の御落胤のやうにきこゆといへるもさることなりか  
くて上にあげたる天正記を以しめ豊隆の戦風記等を併せ考ふるにもう萩の中納言村久野に配流の後かの息女父といもに上京して禁中  
に奉仕懐胎の後御器所に下りつきて住て此處にて太閤をうみまわらせ其産子を率てかの中村の筑阿彌が妻となり給へるにかあらむ  
此故によりて里俗の御所屋敷などいはずも縁なきにあらずされと持統中納言及大政所のしほしにても住給へりしはさるへきやかりあり  
けむもならぬとそは今とりわきまへかたし

### 右馬允屋敷

御器所村地藏堂といへる地の民家の西南の方にあり是吉野右馬允が宅址なり境地皆島にて四至詳なら  
ず府志に此處を城址としたるは誤なり此村にて今も猶右馬允屋敷といへり右馬允は前津小川の住士山  
田藤藏盛重が婿にて此處に住へり妻は熱田誓願寺の開祖日秀妙光尼上人也府志に按右馬允娶前津士  
山田藤藏女其後右馬允戦死其妻薙髮爲尼曰善光上人建誓願寺云々とあり

### 服部屋敷

御器所北市場といふ地にあり服部源左衛門の宅址也宗圓寺の西の方に属たる地にて遺址みな島也源左  
衛門の始祖は伊賀國服部郷より出しが父將監までは當村の東脇の城主にて佐久間大學に仕へたりき  
その後源左衛門は福島正則に仕へ馬廻役をつとむ正則事ありて後此處に移りすみて寛永五年戊辰正月  
十一日身まかりぬ法名を雄山道英居士といふ嫡子源左衛門泰明はしめて正保元年の頃源敬公に仕まつ

るされは正保より已前二代住居たる宅址なり

### 五郎丸屋敷

大喜村の内坊山といふ地にあり是は熱田神宮大喜五郎丸宅址也五郎丸は今の内人大喜備前守從五位  
下守部宿禰清廷が遠祖にてもとは此處に住へり即五郎丸を歴世の通稱とす又此村に森部といふ名字を  
となふる民家あるはみなこの同族なり

### 師長屋敷

本井戸田村田島といふ地にあり治承三年に妙音院太政大臣師長公當所にさすらへ給へりし配所の宅址  
也境地すべて畠にて土地殊に卑し中央に標石あり近年此境内に古井一所あるを見出せり深さ二丈余も  
ありて甚美泉也此地はかの公の配所の宅址なる事村民等も普く知りて此處に住へる事なければ決して後  
に穿るにはあらず是を正しく當時の井なるへきよし里長いへり

### 龜井屋敷

本井戸田村龍泉寺の西の方にあり龜井六郎重清出生の地なりといへり境地民居にて詳ならず府志に  
按重清者紀州熊野人也恐是別人然不可知といへるはさることにて重清の此處に住けむ事おぼつか  
し龜井といふ地名の諸國に同例あるを思はぬより起れる附會説ならむか

### 彌左衛門屋敷



山崎村にあり古城址の南入口にあり永田彌左衛門宅址なり彌左衛門は佐久間右衛門尉信盛が家臣なり  
と云へり境地皆島也

### 重左衛門屋敷

同村名古といふ所の民家の東方にあり岡本重左衛門が宅址なり重左衛門も佐久間が家臣なりと云境域  
南北二方は谷を境として皆島地なり

### 帶刀屋敷

戸部村にありこは水野帶刀忠光が宅址也戸部村と笠寺村の間海道より一町ばかり東北の方也忠光は清  
和源氏にて小川中務重房の後胤水野藏人貞守三世孫監物忠綱の二男にて信長公に屬し當所に住り嫡  
子三右衛門光直其子彌左衛門光種其子彌左衛門光政同久左衛門光兼同彌五左衛門光綱さて世々此處に  
住居たりしが正保四年瑞龍院君の命によりて光綱はじめて熱田誓願寺の境内に移れり是今の市之進  
光甫が祖先なり

### 長者屋敷

鳴海驛にあり鳴海の長者太郎成高が宅址也成高は延長の頃の人なるよし笠覆寺縁起に見ゆ今瑞泉寺の  
境地なりといへり

### 十太夫屋敷

同處上町といふ處の北の方にあり境内皆島也久野十太夫が宅址なり十太夫は安原備中守の家臣也と云

### 横地權藏屋敷

植田村民居の南駿河海道の南の方にあり境地みな島也權藏は此村の古城主横地越後守秀重が裔にて城  
廢て後此處に移り住り慶長十六年四月家康公駿河の國府へ御下向の折しも權藏拜謁し奉り原田右衛門  
取次にて御馬の橋をさへけ奉りけるに彼が先祖のともからいづれも戰死せし忠勤もかほしめし出さ  
せ給ひていともかしこく懇なる仰ありて何にても願ははしき事あらは申出よと宣はし、かは植田の村  
中悉諸役免除をこひねぎ奉るよし言上ぬ即申のまに、永世諸役免許の御朱印を給ひて今猶然りかく  
て殿の御代々はしめて御上國の時御馬の沓を獻りて拜謁し奉る例絶る事なし然る故に今の權藏も府下  
に住へれと村民より月俸をも充て拜謁用途の料物を附與すといへり

### 達智屋敷

傍爾本村にありこは當郡祐福寺の開基達智賢了上人の彼寺創建已前に住居ありける舊址なり  
福寺の條に  
はしくいへり

### 景清屋敷

熱田南新宮竹藪の中にあり惡七兵衛景清の宅址なりといふ府志に平家亡後匿跡住此又以大瀬子卷  
中一爲景清宅至今有景清祠亦曰自熱田至二十町計北竹有二穀謂之景清宅墟者同郡古渡村



地也不知孰是厚見章曰景清者大宮司季範伯父也故住此地然季範者頼朝外祖也不可隱平家餘黨  
一恐是別人といへり又この外に知多郡中にも景清宅といふ地ありいふかかしき事なり

### 中野又兵衛屋敷

熱田の田島町にあり是中野又兵衛重吉退居地なり今は寺となりて弓頭山秋月院といふ府志に慶長三年  
以其宅一建寺重吉妻法諱云秋月院故爲寺號一請富田大中寺建室和尙爲開祖所謂重吉妻者今川  
氏豊女而建室和尙者氏豊兄也と見えたり

### 豊臣太閤屋敷

上中村にあり今は太閤山常泉寺の境地となれり常泉寺は秀吉公の宅址に慶長の頃寺堂一字創建したる  
を元禄年中に再興造營して今のごとくなれり堂の前庭に狗骨樹一株ありこは太閤幼年の頃手づから植  
させ給ひし由云傳へたり寺に信長公東帯の書像一幅秀吉公唐冠東帯の書像一幅所持の慶及盃をはしめ  
七歳にて書せ給へりといふ天満大自在天神の神号一幅淀殿の書といふ色紙一幅秀頼公十一歳の書とい  
ふ豊國大明神の神号一幅又鎧形の茶釜などあり

### 長嘯子屋敷

同村太閤山常泉寺の西の方にあり遺址すへて畠となりて四至方域わさがたし此人は木下肥後守豊臣家  
定の嫡子にて此中村にうまれ少年より秀吉公に仕うまつりのちに播磨國龍野城主となり天正十六年侍

従にめされ若狭國九万石を領少將となる慶長五年家康公の命をうけて伏見城の留主居となりて守られ  
しが石田三成に攻られ城を出しに坐せられて領國沒收せらる其後齋庭して長嘯子といふ東山に隠居し  
て専ら歌をこのみ文章かく事を善せられたる事普く人の知れるが如し委は人物傳にあり併せ見るへし

### 清正屋敷

同村にあり加藤肥後守清正の宅址也今は妙行寺境内となれり同寺所藏に清正書像一幅同人東帯の書像  
一幅あり是は肥後國本妙寺より奉納すといへり清正自筆の歌秀吉公自筆の書翰一幅清正記一部清正自  
筆の書一幅なつめ茶釜是は太閤より清正拜領すといへりかゝる類猶多し

### 小出屋敷

同むら妙行寺の西の方にあり小出播磨守秀政宅址なり秀政は大職冠鎌足公三十五世孫小出五郎左衛門  
藤原正重の嫡子にて初名を甚左衛門といへり父正重信濃國より此村に移り住りし後此處に成長して秀  
吉公に仕ふまつり後に九万石を領し從五位下播磨守になれり慶長九年三月廿二日卒て本光院日政とい  
ふ此屋敷に今は里民平藏すめり平藏は小出平右衛門秀常が子孫にて秀政同氏の支族の正統なり

### 紺屋やーか

同村常泉寺の北の方にあり境地みな畠也吉岡次右衛門が宅址なり次右衛門は染物をよくして家業とす  
秀吉公大坂城に坐し頃召れて彼處に移り天満橋邊に住て専ら染物を職とす吉岡染といふは此次右衛門



が仕出たる也文祿二年九月十四日太閤より上中村の内三分一百七十二石を地下人に給りける割符の朱印證文に五石こうやと書れたるは此吉岡に給へりしなるへしかの證文にこうやとあるは紺屋と云意也

### 吉田屋敷

岩塚村にあり當村古城主吉田内記守氏が同族吉田九郎左衛門か宅址なり

### 秋田屋敷

秋田左内屋敷なり同村八幡社の辰巳の方にありとこの七社の神主吉田求馬盛保の家譜に見ゆ左内は吉田九郎左衛門か從弟にて福島正則に討れたるよし尾陽雜記にも吉田家記にも見ゆ

### 隱齋屋敷

鳥森村にあり民家より西の方佐屋海道より南に屬る地也境地みな畠にて西南の方に松樹一椽あり副田與左衛門吉成入道隱齋退隱の地なり士林河百十四卷副田系圖云家譜曰副田與左衛門吉成尾州鳥森城主也此家譜に城主と書るは誤なるへし當村の古城址は一所あれどもそれは杉原伯耆守長房の城址にて其子左門より歴代この城址に住へる村民銀藏は長房子孫正統にて名字を今も杉原といへり此城の外に城址なし隱齋が此村に退隱せられしは祖先より本居在佐の地なれば也されと屋敷と云さへ境城 豊臣太閤徵時以<sub>レ</sub>其妹妻<sub>レ</sub>之秀吉與<sub>レ</sub>神君<sub>一</sub>講和時謂<sub>レ</sub>吉成曰汝離婚矣我以<sub>レ</sub>吾妹<sub>一</sub>嫁<sub>レ</sub>德川家以<sub>レ</sub>和若然則平<sub>レ</sub>治天下<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>難也我且增<sub>レ</sub>汝封<sub>一</sub>賜<sub>レ</sub>五万石吉成曰謹聞命矣我爲<sub>レ</sub>國家<sub>一</sub>出<sub>レ</sub>妻雖<sub>レ</sub>然依<sub>レ</sub>之得<sub>レ</sub>食邑<sub>一</sub>非<sub>レ</sub>素志<sub>一</sub>也自<sub>レ</sub>筮髮<sub>一</sub>号<sub>レ</sub>隱齋<sub>一</sub>居<sub>レ</sub>于鳥森邑云々とあり

### 祖父江隼人

北一色むら西脇といふ處にあり民居となりて境域わきかたし善行寺の南に屬る地也隼人か時代及事蹟いまた考へ得ず祖父江苗字の郷民この村に四軒計りあるよしいへり同族ならむ歟

### 奥村屋敷

荒子村の場といふ處にあり西南北三方堀かまへの跡田面に残りり界内の東の方に屬て民家一軒あり林左衛門といふこの外はみな畠也是奥村助右衛門宗親が宅址也宗親は大職冠鎌足公廿九世孫公綱七世赤尾市十郎藤原忠利嫡男にて初の名を助之進武麻呂といへり後に助右衛門宗親と改む當國中島郡奥村に整居したりしを信長公めして荒子村に采地を給ふこれより荒子村に住て奥村を稱号とすかくて同村前田家の女を妻として二女三男をうむいはゆる一女は戸部新左衛門が妻也二男は庄右衛門利久といひて織田信孝に仕ふ 後に浪人 次に一女ありたり其弟助右衛門永福前田家に仕ふ後に伊豫守となる其弟市左衛門久信秀吉公に奉仕て船奉行たり庄右衛門利久が子孫連綿と相承して今猶當村にありさて宗親は文祿二年癸巳十二月五日没す天真院圓成宗親居士といふ

### 松葉

日比津村にあり大圓寺境地も此中にありかくいふ故しられす

### 圓殿

下の一色村にあり古宅址のさまなから名義故縁しりかたし



古跡

市部堤

日置村より西の方四女子村に至る田面の小經をいふこれ古はこのあたりみな市部といふ地名なりしが廢れて遺址僅に存れる也徇行記二女子村の條に市兵衛堤見取畑云々と記るも即此市部堤の事也市部と書るも古はイナノベといひならひこせしをノ文字を省て直にイナノベと唱ふるは近世の訓也ノ文字を省けるより心得誤りて人名の市兵衛とかくに至れる也

七本松

御器所村にあり是はむかし清須より鳴海に至る官道の並木の存れる也清須より那古野を經るあたりを上市場海道といへり三の丸中小路より武平町あたりこの七本松へ續ける海道なりけるよし傳へいへり

牛卷淵

高田村精進川の川上にありけるよしなりむかしは此あたりいと深淵にて大蛇居たりけるが彼深淵に牛馬を取て捲入食けるよし也今は田地の名に残れり

蛸畑

鳴海村の東北にあり府志に相傳此邊往古濱海浦人釣章魚于茲故名往々犂田得蛤殼之屬然此地距

海殆乎三十町而得蛤殼一吁可異哉とあり

鉢木

同村丹下の城址のあたりにあり府志に日本武尊征東夷凱旋日解我衣憩于此其路有一老樹曰鉢木今樹已朽矣とあることく今はさる木もなくて田圃の字に残れり

大將ヶ根

同村にあり桶はさま合戦のとき織田信長公此山にてはしめて旗をあげ給へるよし傳へいへり是義元塚より十町ばかり北に屬る山中なり

燈明島

同むらにあり日本武尊東征還行のとき火うちを納め給へる地也といひ傳へたり

地獄澤

同むらにあり是はむかし藤原元命卒都婆を渡して橋として越られたる地なりといへり此事は地藏靈驗記より出たる説にてあやしくおぼつかなければと今現に遺跡あれば里傳に隨ふ

嫩が茶屋

古なるみむらの南にあり今は鳴海及相原へゆく街道の字也是は上古成海驛の北のはてなる入口なるよしへり府志に鳴海東とかけると誤也今の鳴海驛よりは北の方に屬り



上野街道

本井戸田村の東の田面にありこれより東は野並村聖松へつゞけり上野といふ地は野並にありて今も上野山といふこれ古歌によめる鳴海の上野なり此道條既に廢れて跡なけれど聖松並松などの類まれく舊名を殘せり此井戸田村なるも今は道路たえて田圃の字に殘れるのみなり

聖松

野並村上野山の峯にあり是上野街道の並松の殘れる也廿年はかり以前までは此松より古く大なるもありけるが枯たるよし今はたゞ一株たてり

並松

同むらの南田間にありこれも聖松の同じ街道の並樹の殘れるよし也

鳴尾松

半毛荒井村にあり故しられす

廢之内

島田村の東定納山といふ地にあり是府志に長範古廐と擧て其條下に里老曰昔熊坂長範住此盜驛馬藏此中故曰古廐香掛村亦有長範廐之地蓋風土之説也といへる是也この長範が故事は同村地藏寺縁起より出たる説にて據にたらず又この古廐といふ名目に擧たる府志の説はもと天野信景より出た

これは是又強事といふへし此地名は今現に廐のうちといひ來れるを本とすへし古廐とはいひかたし古廐といふ言は地藏寺の山号より出たる也此山号も往古は島田山といひしを天正二年に古廐山と改号したり此時古廐と名つけしは元來の地名ならぬをかの長範が古き廐といふ意よりいひうめたる山号なるへし此改号等の事はかの寺の縁起の文を見て知へしさて據尻に島田むら音聞松の事をいへる條にいはいく又この里に古廐といふ所あり野翁の説に熊坂長範が住し所街道の馬を繋し處也といふ其地に地藏堂あり是を毛替の地藏といふ長範白馬を盜來れば即黒馬と變せしめ馬の毛色をよどにしける地藏なりといふされは此地地藏人に與せしにや一笑又其東平針村に長範が馬場といふ處あり美濃の赤坂にこそ熊坂が物見松及盜し馬を藏せしとて洞もありとかやこの事は世に普く知り侍らすいかなる盜人をおかやまわり侍りしといへりこの論まことにさる事そかし又府志地藏寺の條に此寺有地藏像一軀俗傳熊坂長範住此地掠驛路盜馬驛於此佛使白馬變黒馬故名毛換地藏又稱雨地藏云祈雨有驗然熊坂住此地不詳恐風土之説也とあり

按るにこの長範がこゝに於ける事はものに見えず馬の毛換を地藏に祈るなどを俗に小栗街道と諸國にていひならはせる一般にして古官道の明證なるへし此廐之内といふ地名は上古驛家のありけむ舊址にもやあらむといふ故は先此廐の内と呼ならへる在所は東西七十二間南北九十間はかり有て小松生たる阿へなり小松生たるは定納山といふに連續たりかく其指處の狭少ならむを思ふに驛馬をこめ置廐にはあらて驛亭のちつゝきりけむ宿驛地の僅に殘れるを驛の内といひならへるならむかと思へばなり又地藏寺の山号なる古廐もとは然いふ名の此村に傳りつらむに據るにあらむといふ名のあらむにやいよ古驛といふ意なるへくかたく古驛家の廢址とこそおほわれされと上にいへること今は廐之内のみいひてフルヤといふ字なければとも天正の頃には然いふ字ありしにやあらむ

十王堂墟



沓掛むらにあり古松むらく立り鎌倉海道にて十王堂ありし址なりといへり今は地名となれり

### 棧敷山

山崎村白毫寺境内にあり頼朝將軍上洛のとき休息し給へる古跡也といへり

### 大夫堀

白鳥の河西にあり慶長年中名古屋府城御普請の時福島左衛門大夫正則之を鑿らせたりとぞ

### 古城

### 川名南城

川名村郷家の東南の方に屬る地にて駿河街道の南の方にあり此處の字を城屋敷といふ也城墟皆陸田にて古井二所あり四面竹藪めぐりて外堀の跡も存れり檢見せしむるに東西三十五間南北三十間あり

### 同所北城

同村のうち東の方に屬る地にて駿河街道の北の方にあり南西北三方は竹藪にて此處の字を大敷とも城屋敷とも稱せ城跡に民戸四烟あり南北三十六間三尺はかり東西三十二間半計あり府志に川名城二在川名村土人曰一則佐久間彦五郎一則佐久間半左衛門各居之俱不知何時人といへり然れども今は

此傳説もうせて郷人にかゝる姓名を知るものなしされば南北二城の内いづれを彦五郎半左衛門とも決むべきよしなし

### 末森城

末森村郷家の北の方に屬て街道の北にあり墟尻に東西百間余南北七八十間二重堀といひ府志にも東西百間南北八十間とあり西丸の分東西四十四間計南北廿四間計東の方本丸の分東西廿四間南北廿六間計あり是は北の方に屬て白山の社地を除き四面の堀かまへをも省て臺址のみを檢たる也總域にては同書にいへる如くなるへし古井も一所猶殘れり城主は同書に天文年中織田備後守信秀始築之其子勘十郎信行繼居此城信行為其兄信長見殺後廢矣といへるがことしさて此處の白山社勘十郎信勝の在世天文廿二年に勸請の神なる事こたびはトめて見あきらめたり其故は此社の禰宜松永東太夫政陳が家に傳はれる古き御正躰の臺坐はかり殘れるに裏書ありとて持來たるを見れば臺座一枚の板にて中央に眞木をさせる穴あり裏書に白山勸請神御坐御光施主織田勘十郎信勝並本山大御前別當阿闍院權大僧都道雅辛丑歲當社別當眞如坊頼舜佛工熱田信放法橋是作天文廿二年五月三日御鎮坐道雅筆者といふにていちしるし御正躰は往年盜賊の爲にうせぬといへり

### 植田城

植田村民戸の内にて駿河海道の北の方に屬り東と北に堀の跡土居なども殘れり城墟東に屬てはみな陸



田にて西北の方に民戸二烟あり横地太郎左衛門尉秀綱始て遠江國より此地に移り住しよし十世孫越後守秀重その子小左衛門秀房其弟吉藏秀種其弟新三郎秀行など世々此城主たりき秀綱は文明七年乙未九月十一日身まかりて遠來院光譽秀綱居士といふ秀重は文祿二年癸巳九月十一日亡て姉川院名譽道念居士秀房は天正十二年甲申六月廿三日當國海東郡蟹江に戦死して蟹房院劔翁仁榮居士秀種秀行二人は天正十二年四月八日愛智郡長久手に戦死して長種院弓岩道節居士長行院鎮山宗心居士といふよし同村全久寺の古位牌に見えたり

一色城

一色ひらの中島といふ地にあり舊址すべて陸田にて四面に塙の跡なし此地を城山といふ也城主は柴田源六なりと里人はいへり 府志に勘六と誤る同村神藏寺の筆記に柴田源六源勝重在世日此寺を創建し雲岫麟棟和尚を請待して開祖とす勝重は文龜三年癸亥七月二日に卒して靈元院殿天信了運大居士といふよし見えたり義稻按に織田家の長臣柴田權六勝家は此隣村上社村の人にて天正十一年癸未四月越前國北莊城中にて卒ぬ時に年六十余也勝家もし勝重が裔ならは祖父曾祖父などにもやあらむ此村に柴田名字の家今もあり並同族ならむ

上社城

上社村西島といふ民戸の南の方前山といふ地にあり北西南三方は塙がまへにて舊墟すへて島也城主は

賀藤勘三郎なりと里俗の傳へしへるが如し同村觀音寺の古き過去帳に

文明六年

天庭誠井禪定門 前山之城主 藤森了玄  
俗名賀藤勘三郎 院且家也

午正月四日

と見え又藤森の了玄院の古位牌に 表飾真天庭誠井禪門靈位 文明六年正月初四日とあり又明曆二年申十月九日に書る此村の書上帳に長三十間横八間西の方に堀の形巾三尺程七十二間御座候先年之城主加藤勘三郎殿と申候此勘三郎殿行末は存不申候右之屋敷之内畑二畝二十四歩是は備前殿御除地の時高の内へ入申候殘の分山の内に成御座候と見えたり

平針村の城跡

民戸の北の方字を元郷といふ地にあり四面に今も猶土居の形存りて松樹むら／＼生立りかまへのうちは皆水田なり東西三十四間南北三十一間半あり 府志に土人曰小野田勘六居之といへる如く今も郷民其姓名を知れり康曆年中に同郡傍爾本村に小野田左近將監長安といふ士ありき勘六もしくは其一族歟又其裔なるにもやあらむ長安は法名阿願と呼て祐福寺再建の施主也傍爾本村春日の社の棟札に奉修理御社甲辰慶長九年閏八月初七日大願主小野田長右衛門同太郎右衛門云々など見え今も同村に小野田の名字の郷民あるよしへるをわもふに勘六も同黨の宗族なりしならむ

赤池城



赤池村民戸の北の方三町はかりにありて城域みな畑也東西廿七間南北三十八間あり城主は丹羽帶刀秀信也郷民いへり秀信は天正元年に同所龍淵寺を創建せり寛文覺書に丹羽十郎右衛門居城としるし府志に土人曰丹羽七右衛門居之今爲水田然壘趾僅存矣呼之其地曰元郷と云るこの爲水田とあるはたがへり元郷といふ地は今の村の舊址にて此城の西に屬り十郎右衛門七右衛門などいへるも帶刀が初名か或は親子歴代のうちか未勘得

梅森北城

梅もり村にあり北の方に屬る處にて城址は此村の古記録に東西二十四間南北三十二間とかけり府志に爲民家及陸田といひ城主は松平三藏なるよしへる如し此城址の北の方につゞきて眺景寺といふ寺あり此寺もとは天台宗にて桃延坊といひしを天文二年に此處に移して七年戊戌三月淨土眞宗とす其時の本願主は當城主松平三藏高照の末子にて道西といへり其子尊照より血脈絶えず相承して今に至る道西は弘治二年丙辰四月朔日身まかりぬとこの寺の記に見ゆたり

同所東城

同村の内東の方に屬る地にあり此村の舊記に東西十八間南北二十間とあり今は東西十八間南北廿四間はかりあり城域皆民居となれり城主は松平助左衛門なりと府志にいへることし

淺田城

淺田むら上郷といふ地にあり西の方に土居の跡残りて界内はみな民居となれり城主は丹羽傳左衛門也と府志に見えたり

折戸城

をりとむらにあり西島といふ地也この地むかしは吹上といひしよし丹羽家の傳記に見ゆ今はさる名は絶て傳はらず城根といふ也氏神八幡社より一町ばかり西にて民居の北に屬る山城にて西南の方は眼下に見ゆるして景色よく吹上ともいひつへき地形なり北は山南は谷にて東西二方に堀ありしさま残りり東西堀を除て二十五間南北十八間ばかりあり當城は丹羽和泉守氏從文明三年四月はじめて築て此處に住居し明應六年丁巳八月六日身まかりて長松寺殿龍澤道盛大禪定門といふ其子新助氏員文龜三年に同郡本郷村に此城を移したりか、れは二代三十三年在城の後廢れたるなり

本郷城

本郷村民居の北の方字を元屋敷といふ地にあり四面に土居あり土居の廣さ九尺はかり界内は田畑となり土居を除く東西廿間五尺はかり南北廿一間四尺はかりあり城墟の南東をすべて元屋敷といふは今の村居の舊址なればなり又此處の北の方を城北といふ也當城は文龜三年に丹羽新助氏員折戸城を移して住初しより其子平左衛門氏眞其子若狹守氏清在世天文七年まで三代三十六年住へりし也氏員は永正十五年戊寅十一月十八日身まかりて悟室道參大禪定門といひ氏眞は天文五年丙申二月廿三日に卒



して性庵道見大禪定門と云也

### 岩崎城

岩崎村中市場といふ地にあり四面に堀あり廣さ八間ばかり府志に東西八十五間南北百間といへる如し堀を除て本丸分東西四十六間はかり南北四十二間はかり北の方二の丸の内に古井二所あり西の方に屬て大石立り地中に埋れたる深さはかりかたしといへり東南の方に一株の古松あり當城は丹羽若狹守氏清天文七年あらたに築て本郷の城より移りて此處に住りかくて其子右近太夫氏職其子右近太夫氏勝其子勘助氏次にて四代天正十二年まで四十七年住へりしなり然るに同年三月氏次徳川公の供奉して小牧の陣營におもひく時其弟當郡傍爾本村の領主丹羽次郎三郎氏重及姉婿長久手の領主加藤太郎右衛門忠景等に家士を授て當城を守らしむ四月九日池田勝入森武藏守大軍をひきゐて此城を攻む氏重年十六弱冠なりといへども池田森が猛勢に對して義を守り勇を奮ひて士卒從類等まで悉並戰死す其士主從四十一人射夫三十八人歩卒六十人奴僕七十人工商の入城せしもの三十人はかり惣計二百四十人なり氏重が其日の指物は紺に白筋二ヶ所引たるをさし紺糸の鎧に芦毛の馬に乗手鎗を持って縦横につき出城外に戰死す加藤太郎右衛門忠景は天衝の大さし物さし白糸の鎧着て月毛の馬にのり大身鎗を提てよせ手十四人討とり數ヶ所痛手を追て遂に戰死す時に年四十二當日卯の上刻より辰下刻に城兵敗れて戰はてぬ翌十日惣死骸とり納めて氏重を妙仙寺に忠景を長久手に葬む氏重を鐵樹院殿傑山常英大居士といふ

### 長湫城

長久手むら東島といふ地にあり舊墟すべて民居となりて詳にわきかたしといへども大概東西廿九間はかり南北廿四間はかりあり城主は永享年中左近太郎家忠左衛門次郎國守享祿の頃齋藤平左衛門尉同民部丞なごなりしにもやわらむさて此城廢て加藤太郎右衛門此地に住へるならむか後人猶よく考へ極めてよこの村景行天皇の社の祠堂青山助太夫が家に太郎右衛門の書る一軸あり

愛知郡長久手村加藤太郎右衛門

### 奉建立大妙神守護所

慶長辰甲小春吉日禰宜忠右衛門

とあり又此城址のうちの高さ岡の上に本齋加藤氏より近年建たる石標あり表加藤太郎右衛門忠景宅址加藤太郎右衛門忠景 延文化六年己巳十一月加藤左一郎忠久と彫付たり加藤左衛門品致

### 岩作東城

岩作むら東島といふ民戸の西の方に屬る地にてこの字を城の内といふ也四面に土居の形猶殘れり土居幅二間つゝあり土居を省て東西四十四間南北三十二間あり地方覺書に今井四郎兵衛居之當村東島にあり其跡一段二畝歩也とある是なり郷人今も其名を知れり天正十二年四月九日岩崎籠城戰死の土に今井四郎三郎といふあるは四郎兵衛の子などにやありけむ



同所西城

同村西島といふ民居の北の方にあり堀溝等もなく土居も残らねは舊城定りにわさかたしされと東西三十間南北十間はかりあり地方覺書に又一ツは鈴村權八居之當村西島にあり其址一段廿歩也といへるは是也城址みな水田なれどこの字を城屋敷と呼也

本地城

本地村植田島といふ地にあり民家八九戸ありて其外は田島也東北二方に堀の址いさゝか存れり民居入交りて四至詳にわさまへがたけれどよく見あさらむに東西三十五間はかり南北廿四間計あり城主は松原平内也と府志に見えたる如しに頃迄此城址に松原氏の者ありしが坂上島といふ地に家を移せり其は今文四郎といふ者也と村長いへり是もしかの松原平内が一族か又はその裔などにもやあらむ

菱野城

ひしのひらのうち羽根屋敷といふ地にあり四面に高土居竹藪ありて南大手口の形勢したり内に民戸二烟あり東西三十七間南北も三十七間あり城主は府志に林次郎左衛門といへり十四卷系譜の山田系圖に尾張國山田郡菱野村駿河守平義村所領以山田三郎泰親山田左近太 山田左近太 夫重親二子補上菱野村地頭職以山田四郎親氏三子補下菱野村地頭職人物志に山田筑後守源重定愛智郡菱野村人など見ゆされはこの山田氏人の古城址に後追繼て林氏の住へりしにやあらむ

山口城

山口むら本泉寺の境内是也此地はむかしは菱野のうちにて山田三郎泰親が上菱野の城址也と寺傳にいへり泰親は弘安四年剃髮して瀧顯と号し上菱野に本泉寺を創建してみづから開祖となりさ下野國高田専修寺顯智の弟子となりて弘く門徒を教諭したりしと府志に當所海上洞なる物見が嶺を云る條下に土人云是武田信玄置成之古壘也といひ又山口城在山口村土人曰武田信玄置成之地今按武田信玄取尾州地無所見信玄嘗與織田信長有隙進兵侵東濃一拔數城恐是此時置斥侯之地といへり此物見が嶺より其地理を見るに參河美濃尾張三國の地境郷里詳明に眺望すべく斥侯を置にはさるべき勝地なれども城域と定むべき地勢にあらす元來城跡といへる傳説もなくさる證と定むべき地名もなし此外にも此山口には古城跡なき也この本泉寺あたりは上古は上菱野なりしが後に山口の地に隸するなるへしざるを本泉寺所藏の山田世系山田三郎泰親が傳に事大將軍惟康親王爲山田莊上菱野地頭今屬愛智郡三名然樂閑寂壯年而讓地頭職于子重元而閑居焉とあるこの上菱野を後に山口と改名すなどい山口此山口を小口と書るは今本のあやまりなり本國帳に從三位山口天神とある並同地にて菱野よりも今少し以前のかたよりの郷名なるべく千年以上の舊地なる事はまづもさらなるものをや

藤枝城

藤枝むらにあり民居の北へ風たる地にあり東西北三方に土居の形残り南につきて藥師堂一字あり堂よ



藤島城

り東北の方は水田陸田也東西廿九間はかり南北四十四間あり城主は丹羽常隆なりと郷俗いへり

藤島村民家より西の方字を元屋敷といふ地にあり四面に高土居残りて東西二方土居の中に門かたちの入口あり東大手の入口廣き三間四尺ばかりすべて土居の直高二間東西は土居ともに三十間南北は土居を除て廿七間あり城主は古城志に丹羽右馬允といへり岩崎村妙仙寺所藏の丹羽家系右近太夫氏識の傳に尾州藤島城主丹羽右馬允雖爲岩崎庶族別立一家萬任我意故氏識度々押寄藤島城令苦之右馬允智力不能及請救於信長信長即爲右馬允向岩崎先陣既到横山時父氏清留主岩崎城氏識使息氏勝爲先鋒將拒戰敗信長先陣於是信長不及戰而収軍氏識父子追北到平針少々討取首級而歸其後右馬允速請救於信長終不出軍故右馬允不能往藤島住三州憑廣見城主於茲氏識領藤島邑と見ゆ若有隨筆に愛智郡藤島の城主は丹羽右近と不和なりしが右近兵を出し横山にて合戦し勝利を得たりし程に右馬允は三州へ落去す其後右近藤島をも并せ領したりと云と見えたり今此村にて城主の名を知らずといへども軍敗て後に三州ウキカイといふ地に移り住りと語り傳へたるよし里人のいへるもよしありけ也ウキカイは三河國賀茂郡にて福谷村也丹羽家系に廣見の城主をたのみてゆきたりといへる廣見も同郡にていと遠からぬ地也

大草城

大草村西之島といふ地にあり西北二方は山を垣とし東南は二方ともに深谷を境とす石城内東西廿間南

北廿間あり城主は福岡新助也と土人いへり此界内も城之内といふなり

野方東城

野方村上井田といふ地にあり山の神の森の東に屬る地也土居又堀構へもなく四至定かにわかたしといへども村の舊記に東西十八間南北十八間ありと見ゆたり城址すべて島也城主姓名知られず

同所西城

同村下井田といふ地にあり東西の隅に土居の形残りて松樹むら／＼生たり西北の隅にも土居いさゝか遺れり界内は田畑也東西十五間南北十五間ありと村の舊記に見ゆかまへの内の字はこゝも城の内といふ也此村に城主の名を知るものなし

米木城

市場といふ地の民家の西のはてに屬たる地にて此處の字を熊野藪といふなり東西十六間南北十四間はかりあり南の方に竹藪二間幅東西十六間に直れり是を熊野藪といふ故しらす此外は皆島なり城主知かたし地方覺書に其墟上島四畝十九歩ありといへり

諸輪南城

諸輪村下屋敷といふ地なる庄屋眞野勘右衛門が居屋敷是也南西北三方に土居又堀あり東の方大手口の形勢存れるが今も表長屋門の入口也東より南へ高土居の芝生なるに古木の松並立りこの松は慶長年間



名古屋御城御造營のとき三河國よりはらせて移し植られたる其残り苗なるがかく大木と生しける也  
世々に枯たるは追繼にも又植並たりとぞ此土居の北に大きな池あり府志に城脇池とあるは即是也  
さて此掛右衛門が家は古代より此地の郷士にて先祖は栢植道昌といふそれより世々絶す村長となり來れ  
るが近世に眞野と改めたりとぞ城主なりしは道昌より以前か知かたし天文の頃山口九郎次郎が輕足大  
將に栢植宗十郎といふあるは歴代の内か又は同族にもやあらむ舊家なる事は疑なければと家譜記録残り  
なく火に失て萬わさがたきよし今の掛右衛門いへり城址は東西三十七間南北三十八間あり

同所中城

同村下屋敷といふ地にあり東北二方は竹藪南北二方は松林にて西北南に垣形残り良の隅に民家一戸あ  
りて其外はみな畠なり東西廿間南北三十八間あり城主は丹羽次郎三郎也と郷人いへり

同所北城

同村上屋敷といふ民居の北の端にありて東南二方高土居残り西北二方に堀ありて小松交りの竹藪あり  
土居堀幅を除て東西廿八間南北四十間あり城主は丹羽右近太夫なりと郷人いへり 府志には諸和城二  
土人云一則丹羽道休といひ地方覺書に丹羽道休城跡畠三畝十二歩とあるは即是也張州志畧に按丹羽系  
圖丹羽右近大夫源氏識 若狹守 氏淳子 築城於尾張國愛智郡諸輪郷云々と見ゆ氏識の法名道休といへり

傍爾本城

傍爾本村にありて市場といふ地也東は谷にて平田を見下し南西北三方に堀あり四面に松林竹藪めぐれ  
り西北の隅に民戸一畑ありて其外は皆畠也東西三十一間南北三十四間あり城主は府志及地方覺書に丹  
羽右近とあるがことし按に此右近は丹羽右近太夫氏勝にて其子次郎三郎氏重二代住へりしならん

沓掛城

沓かけむら慈光寺の東にあり四面堀搦にて南の方に屬て民戸三畑又竹藪あり府志に東西六十二間南北  
廿二間とあるはたがへり東西廿二間南北六十二間也城主は嘉慶二年に同郡祐福寺再建の施主近藤左近  
將監長安 初小野田 入道阿願の裔近藤左京進 明應頃 等已下繼々歴代相承して同九十九郎景春に至る景春は永  
祿三年庚申五月今川義元の桶はさま合戦のとき同廿一日に此城に戦死して空城となる 信長記にさて大高沓  
掛池經時鳴海數ヲ所  
の城々悉閉退の間是より後只統を  
奉山の安きに置給ふ云々と見えたり かくて後織田玄蕃しばしこゝに住りしにやとおもはるよしありとほ府  
志に云按東照宮御年譜曰永祿三年五月公襲尾州沓掛城二燒民家二而歸傳云此時織田玄蕃在レ此屢與二岡  
崎一挑レ戦とある是也又梁田出羽守 大關記一ノ巻に信長公今川義元を討給ふ後出羽守に  
沓うけむら三千貫の地を恩賜ありよし見たり 同左衛門太郎 この左衛門太郎は天  
正三年十二月に別喜  
右近と改名せりざるを府志に按梁田出羽守後因二信長命二改三名別喜右近といひ又徇行肥後豐後寺の條下に此守は永祿十一戊辰年別喜右  
近創設す云々天正七己卯年六月六日右近卒牌下に法名前羽州太守兼岩宗總大關定門うらに當守大權那とありといへる此兩記ともにあや  
まれり右近は出羽守の子左衛門太郎の後の名にて改名の年月上に引るごとし永祿十一年頃別喜右近といふ人ある事なく  
右近が牌字に前羽州太守とかくべきよしあらめやされば天正七年の牌字は出羽守のなるを子の右近が遺立したるならむ 守川口久助等なり

鳴海の根古屋の城



鳴海驛の根古屋といふ地にあり村の舊記に東西七十三間南北三十間と記したれど東西七十五間半ばかり南北三十四間あり四面に堀あり本丸二ヶ九境にも堀あり城域皆島也地方覺齋に東西九十二間南北廿間とあり城主は安原備中守其後岡部五郎兵衛又佐久間右衛門尉信盛其子甚九郎正勝等なり村の舊記に云只今島に罷成申候四百年已前安原備中守在城之由申傳候其後永祿年中岡部五郎兵衛と申仁旅人の体にて鳴海へ罷越逗留仕古城見立普請の用意有之段々人數大勢に罷成候付鳴海町名主平松新七と申もの清須へ申達候得は其通に差置候様にと信長公より被仰付候故右の五郎兵衛城取立申候由申傳候信長公御代に至て佐久間右衛門尉同甚九郎父子在城之由申傳候御代に罷成甚九郎殿不詳駿府へ被召出鳴海止宿之節古城一見自詠 ふるさとも我もむかしになるみかた旅寐の袖をしほるはかりそと記せりそもく岡部が敵國に入來て古城を修造するを其まゝにさしかかせ給ひて遂に御手に入させ給へる織田公の大量強勇おもひやられていみしくなむ

### 同所丹下城

同驛丹下タナシといふ處にあり村の舊記に東西四十一間南北二十四間制札場より九町子の方にあるよしいへり城址すべて島なり實は東西四十六間南北四十三間あり永祿の頃水野帶刀山口海老之亟植玄蕃允こゝに居れり

### 同所中島城

同處中島といふ地にあり扇川の邊民居の中にて城域はかりかたし制札場より辰己の方四町ばかりなるへし舊記に長八十間幅五十間と書り永祿のころ梶川平左衛門住り舊墟すへて民居にて間數定めかたし民家の裏竹林の中にいさゝかなる塚あるを梶川が墓なりと云り

### 同所善照寺の砦

善照寺といふ地にあり制札場より六町卯の方にて舊址に古松樹七本あり舊記に東西三十三間南北廿間とあれども東西廿四間ばかり南北十六間ばかり有て界内みな島也佐久間左京助こゝに居り

### 鳴田城

島田むらのうちにあり東西四十二間南北百一間ばかりあり南の方は畑にて北の方に民家三烟あり城主は牧虎藏也と府志にいへる如し此處に住る三家どもに牧氏のうち善右衛門は虎藏の正統の裔也といへり善右衛門よりつぎく追々に分流して牧氏惣計十七家となれり同村地藏寺の縁起に牧右近太夫義次其子右近義汎といふ士あり義次は當國守斯波右兵衛督義隆の四男にて天文十年三月當寺を修造すその後永祿三年五月兵火に燒亡したるを右近義汎再造す又天正二年七月義汎家内一時に痢病をやみけるをこゝの地藏にいのりて快氣しける故辻堂を屋敷の内に移して再建す去年七月嫡男虎太郎地藏の靈夢によりて永く寺に附屬したるよし天正十九年辛卯二月かける同寺の古縁起に見ゆこゝにいはゆる虎太郎とあるは虎藏の幼名か又虎太郎の子虎藏ならむかわさまへかたし善右衛門及同黨のうちにも家譜なけ



中根南城

これは歴代詳に知られぬと善右衛門が遺社は虎藏にて虎藏すなはち義次が家系ならむかし

中根ひら西市場といふ地の南の方にあり界内すべて島也北の方堀の廣さ廿五間半東西廿八間南北廿七間ばかりあり城主は織田越中守と府志にいひ信長記一の卷に中根殿とありされども今里人其名を知らず又府志に土人亦曰織田越中者天性魯鈍人也常隱居不出有馬一匹一驛言五十余匹一使奴僕終日刷洗而失其傳一按織田信秀時熱田商家有二女一甚美信秀奪以爲妾生子名越中一甚痴凱隱居信秀没後水野々州信元娶其妾生三子云恐是越中此人也といへり此事據屍に見たり

同所中城

同ひら南の城の北の方一町ばかり村上と呼地にあり東西廿六間南北三十間あり城主は村上彌右衛門と府志にいへることし境内は是も陸田なり

同所北城

同村東市場といふ地の北の方大根山にあり松樹茂り合たる山城にて界内詳ならず東西廿八間ばかり南北廿九間計りあり城主は村上小膳ならん歟府志に中根城三在中根村土人曰一則織田越中一則村上彌右衛門一則村上承善各居之といへり此三城どもにはやく古傳をうしなひて軍人に姓名を知るものなしされは上伴さめたる姓名も此處と彼處と混つらむも知かたさを後人よく考へさめてよ府志に承

新屋敷西城

善とあるを今小膳と書るは里長の説によれり何れ歟正しからむ

新やしきむら西の切といふ地の北の方にあり東の方は二重堀あり城墟に豐王寺又民家十四軒あり此内善右衛門が居屋敷に古井一所あり是は古城のなりといひ傳へたりと東西九十六間南北八十五間ありて西の方に門の外といふ字も残り城主は山口新太郎なりと村民いへり

同所鳥栖城

同村鳥栖といふ地にあり此鳥栖の一名を東の切ともいふ東西九十間南北六十九間あり城主は成田久左衛門と府志にいへる如く成田氏なる事は多々羅世系録山口將監盛重の女子の條下に號取隅殿成田長右衛門尉母とあるにて知られたりとの取隅殿とあるは即この處の鳥栖といふ地名なる事しるさもなり笠寺の藏書に成田總助時重が長享二年戊申九月廿八日にかける寄進狀に見ゆ天文廿二年四月赤塚合戦のとき山口九郎次郎が足輕大將に成田彌六同助四郎といふあるも久左衛門が祖先歴代のうちか又は同族なるべし此村に今も成田名字の民家四五軒ありこれもかの裔か同族にもやあらむされどさる傳も残りぬよし今の村長云り

さくらの中村の城

櫻村のうち中村といふ地にあり本櫻といふ郷の東の方に屬る地にて信長記及總見記などにはゆる



中村の城是也四面に堀の跡みな田となりて城内は凡て平面の島となれり東西四十八間南北五十間あり  
 東南の隅なる堀の跡に瓦師十藏といふ民戸一畑あり是はいとちかき年頃はじめて住りといへり城主は  
 山口太郎左衛門尉教房其子左馬助教繼其子九郎次郎教吉也教房は大内ノ始祖周防國守長門守多々良朝  
 臣正恒廿二世山口孫次郎教仲ノ三子にて淨本院宗賢固山といへり教繼は織田家に叛て今川義元に屬しか  
 はその子九郎次郎教吉といふにころされき府志に櫻村城在櫻村其他呼イサカ大地掛一土人曰中村氏居之  
 不詳其名古址有古楠樹一椽傳曰永祿中山口左馬助居之といへるは二城の事を一處にまがへた  
 るにて甚誤れり先この櫻村には古城址三所ありて次に辨せり又此中村といふ地名を名字のごとく郷人  
 のいひ傳へたる事は享私三年六月書る此所の村の圖にも中村主動城と記したれば府志撰述の頃よりし  
 か意得たるべけれ也其は誤也信長記一巻に亦中村鳴海の兩城にて山口左馬助父子入置れたりけるが  
 恨をよむ子細ありて謀叛を企駿河勢を引入云々惣見記二巻に鳴海の城には子息山口九郎次郎をこ  
 め置左馬助は中村の在所を拵精籠り云々多々良世系録山口教房が條下に太郎左衛門尉尾州中村の城主  
 などあるも皆地名なるべしと明シメものをやされと今は此城址あたりの田島の字のみに存りて民家なけれ  
 は名字の様に心得あやまれる也又この外に當郡の内に中村といふ地ありそは和名抄に見ゆる舊地な  
 れ也上件三書にある中村とは別地なりおもひ混ふべからず

同所大地掛北城

同ひら大地掛といふ地の北の方字をガウメと呼地にあり南の方は谷の間東の方は入海といはしきさま

也北西二方に堀の跡田となりて界内は皆島也西方二方堀幅を除て東西三十三間南北三十五間あり此地  
 はかの府志にいへる古樹の楠木ある地より二町ばかり北の方にあたれり城主の姓名知かたし正しく殘  
 れる城跡にて里人ガウメの城と呼也

同所丸根城

同村丸根と呼地にあり四面に堀の跡残りて界内總て畑也西の方大手口のさましたり四面堀構の外づら  
 より檢るに東西四十間南北三十二間あり里人に城主の姓名を知るものなし

笠寺の寺部の城

かさ寺村のうち寺部といふ地にあり七社大明神といふ社の西北に屬る處也この邊すへて島つゝきにて  
 舊墟定かに辨へかたし城主は山口將監盛重及其三子同内藏重俊其子半左衛門尉重勝等なり盛重は大内  
 始祖周防國守長門守多々良朝臣正恒より二十二世山口孫太郎盛幸の二子にてはしめは殿丸といひ後に  
 將監と云り法名は傑峯院宗先天翁といふ重俊は天文十九年庚戌四月十七日同郡松本の城の砦に戰死す  
 長安院常松青山といひ又は道号を淨真ともいへり重勝は初名を熊丸といひ清藏また半左衛門尉ともい  
 へりしが剃髮して松雲と号く母は同族六郎四郎盛仲の女なりかくて重勝當城を出て後に星崎の城主と  
 もなりしが遂に文祿四年乙未七月廿八日に豊臣秀吉公のために四十七歳にて京都北野に自殺して靈澤  
 院松雲桂山といふ此外に委き事は世系録にあり



同所市場城

同村市場といふ地にあり城址すべて民居となりて境域詳にわきまへかたし城主は山口左近太夫安盛其子左近太夫宗可其子海老亟盛隆等也安盛は孫太郎盛幸の第一子にて將監盛重の兄なり觀心院宗盛安叟といふ宗可は本岳院宗可善慶といふ盛隆は所々に戦功多かりしかども終に美濃國堂洞に戦死して法名道林道號を少主といふ此村長太右衛門は道林の子孫なり此外この近邑に子孫猶多し此市場のうちに道林の碑石あり

星崎城

本地村田子屋といふ郷の南の切といふ地にありて二町ばかり北也城域はやゝ高さ岳にて平面の陸田地也南大手口西又南の方に崖あり埴の廣さ七間東の方十六間はかり堀幅を除て南北三十四間東西二十六間あり城主は岡田助右衛門直教其子長門守直孝其弟伊勢守善同天正十二年甲申三月より山口半左衛門重勝同十四丙戌年より同半兵衛重政也同十六戊子年織田信雄より重政に勢州茂福一万三千石を給へるによりてかしこに移りし後城廢れたり

戸部城

戸部むら民家より東南の方東海道の南にあり舊墟すべて畠にて堀の形水田に存れり此地は笠寺の松本といふあたりなればすなはち多々良世系録などに松本城といへり地方覺書に松本古城跡東西三十間南

北六十間先年山口愛智居城のよし今は畠になると書り城主は文安の頃愛智助右衛門吉清より歴代これに住へりしなり此吉清が文安三年丙寅九月十六日に書る寄進狀また應仁二年戊子閏十月十三日に愛智助右衛門義清がかける寄進狀文明五年三月二十三日一色愛智入道承永と書る古證文等同郡笠寺村笠覆寺の藏書にあり此古狀に一色愛智とかき文安三年のにも星崎一色愛智助右衛門吉清とあり一色は松本にまぢりく隣たる戸部村の地名にて即此城地の北にあり又この城主を戸部新左衛門也と今里人いへり戸部新左衛門は和漢軍談其外軍記類にも尾張人物志にも其名見ゆるを或説に山口左馬助が事を駿河國今川家にては戸部新左衛門といひしよしへるに府志に古簿書「山口愛智居」于此とあるとを併せ考て猶よく按に多々良世系録山口左馬助教繼が妹の女子とある條下に尾州松本城主愛智妻と書りかゝれば愛智とは近縁者たるによりて左馬助がこの城に住居たる頃戸部と名のり又山口愛智といひならへるにかあらむ

大喜田子城

大喜むら民家より西南の方田子の池の北やゝ高さ岡に松樹むらゝ生たる地より北の方に城上と呼處ありて其あたりキヤウシヤに城下と字もありされど此邊すべて平面の陸田ついで土居堀の跡なども残らねは四至詳に辨へかたし南の方松林の分は東西十一間南北十四間はかりあり是より北の分は上にいへる如く境地定めかたしといへどもかの城の上といふあたり迄は二町ばかりなるが皆一境域なるへし城主は府志にいへる如く新田四郎と今も郷人いひならへるは甚不審也府志に此村の城址を三ツと定めたるに



よれば南に屬たる松林の分を一所にわかつてるならむさては方域甚狭く間敷上にいへる如く城墟と決むへき地方にもあらず按に此松生マツノの分は田子ノ庄司の宅跡とて城と呼はかりの方域地形ならねはもとより城上とは列地なるにやあらむ又府志に「則田光氏居之又曰森部氏居之」といへる此森部氏といふ事は古に熱田ノ神宮大喜五郎丸と云ふ者此村に住居たるが後熱田に家を移せりさて稱号を大喜となれる也大喜が住へるによりて村名となれるにはあらず此大喜といふもとは大毛オホモウにて和名抄に見えたる舊地也大毛をダイケと訓て又ダイギといへる後に喜の字にかへたる也彼神官大喜の本姓は守部宿禰なり此村の今の村長源藏が名字を森部といひて同黨十人余あるよしいへり此則かの神官守部氏が同族にて古くより此處に住へるなりかの神官の宅址は今も五郎丸屋敷といひて同村のうち坊山といふ地にあり是を城跡のやうにいへるは誤也城墟と宅址を思ひまがふへからすか、れば當所の城址は考決て二所とす守部正統の熱田ノ神官は假名に此處の郷名を名のれるに此地の同族は却て正しき姓を名字にしたるもよしある事也

### 同所東北城

同むら民居の東北に屬る地にあり堀の跡水田となりて境地はみな畠也東西三十間南北廿四間ばかりあり徇行記に久治屋敷畠一段九歩是は岡本久治城址なり年貢地なれども元よりかくの如くいひ傳へたりと見え府志にも岡本久治居之土人所傳也とある如く郷民今も其名を知れり此地を久治屋しきといひ此西に屬て古墳あるを久治墓所なりといへりいつ頃の人なるにか未得考

### 高田城

高田村の内新池といふ池の東の方にあり界内すべて畠也北の端に竹藪廻りて濱あり東西五十九間南北廿八間半ありといへり城主は府志に土人曰村瀬淨心居之其他今爲陸田リクノといへる如く里民今も猶其名を傳へいへり此村八劍社なる元祿七年五月かける梁牌ムササビに尾州東海道愛智郡富田氏神六社村瀬淨心熱田明神永祿七甲子年勸請有之元祿七甲戌年迄百三十一年成甲戌五月下旬寫之者也別當松太夫實州書之とあるにて淨心が時代しられたり

### 御器所東城

御器所村東脇といふ地にあり北西二方堀搦へにて竹藪めぐり界内皆畠なり城主は服部將監と府志にいへる如しこの城址の西にまぢかく文之右衛門といふ里長あり是服部黨なり將監が支裔なるへし

### 同所西城

同むら北市場といふ地にあり四面堀かまへにて土居あり城址の廻り二百四十間あり城主は佐久間美作守家勝同民部亟助安等子孫歴代なり家勝は嘉吉元年同村八幡社を修造し助安は文安三年八月民部亟になれり

### 米野城

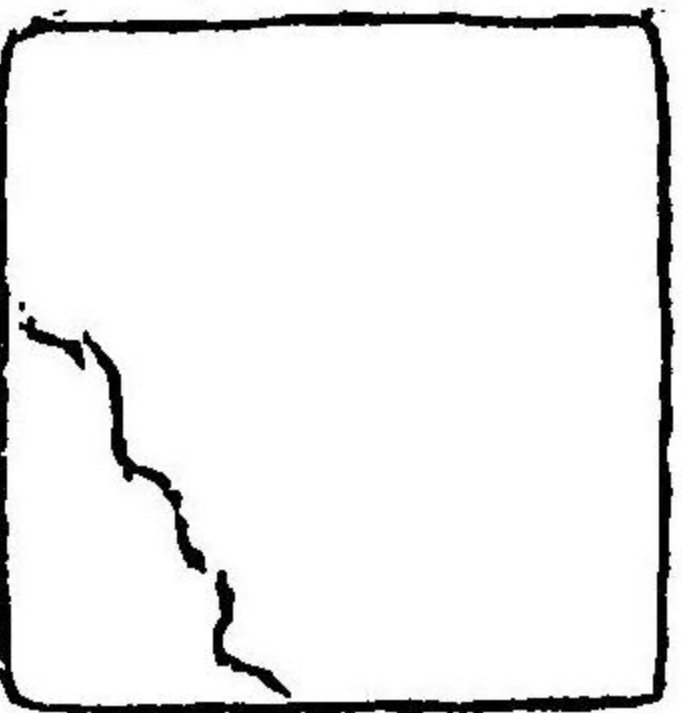
米野村下まめのといふ民居の東老瀬川の西に屬る地にありて字を城屋敷と呼也境地は民家又田畠とも



なれり東西四十八間南北五十八間あり城主は中川彌兵彌なりと府志にいへる如し弘治の頃當城主も林佐渡守の與方にて信長公に別心のさまをあらはせるよし信長記に見ゆたり

### 日比津乾屋敷城

日比津村乾やしきといふ地の南の方にあり舊址みな島にて城屋敷といふ也城主は野尻掃部といひ傳たり東西三十二間南北三十間はかりあり同村大圓寺はこの城主野尻氏二家の菩提寺なるよしにて古き書上帳の草案あり其記に 一畑一段歩古城屋敷長十七間四尺横十七間外四方藪野尻藤松と申仁居被申候只今は御新田に成申候 一畑貳段歩古城屋敷長廿間横十八間三方藪野尻掃部と申仁居被申候とあり又野尻氏の墓所なるよし云傳へて寺境の内にと古き五輪二基あり右五輪の表銘圖の如し



四面かくのごとく三方に彫字ありて一方無銘の處闕損せり又一基は



この圖のごとし又大圓寺境内は此古城址の南隣にて松葉屋敷といふ地の民家つゞき也松葉屋敷といふ由縁しられす

### 同所栗山城

同村栗山といふ地にあり今民居となりて長瀨清四郎といふ二戸ならひ住り東西三十間南北十九間はかり當城主は野尻藤松といひて掃部の家老なりきと郷民傳へいへり

### 稻葉地城

稻葉地村民居の西北の方あざ名を善右衛門屋敷といふ處にあり界内は皆島にてあたりよりは土地高く四面に埴ありしさまごとく水田となりても其さま猶存れり東西四十間南北五十六間あり城主は津田豊後守其子玄蕃允其子與三郎其子小藤次等也豊後守は織田信長公の伯父にて十万石を領知すといへり天文五年丙申十月廿八日卒同所凌雲寺に葬む墓所石碑及位牌あり法名を凌雲寺殿前豊州大守泰翁凌公居士といふ五輪の表銘圖のごとし





かくて玄蕃允は永祿十二年己巳十月十六日に没て高岩勳公庵主といひ奥三郎は永祿三年庚申五月十九日桶迫間の役に戦死して東英雄公禪定門小藤次は天正十年壬午六月二日京都本能寺に戦死して千峯英公信士といふ是より子孫連綿として今の里長八十治をはしめこの津田の支族裔孫村中に少からず

鳥森城

鳥もりむら北脇といふ地にあり東西三十六間南北三十一間ばかりあり總がまへの垣あり今は民家六軒此處に住へり字を城屋敷といふ城主は杉原伯耆守長房其子左門等なり此左門の子四郎左衛門の世より百姓となりて子孫歴代此城址に住へり限藏といふものあり是杉原名字にて長房の正統なりといへり近き文政七申年にこの限藏が家より有司に書て出せるものより先祖杉原左門其子四郎左衛門慶長年以前より鳥森に住仕頭百姓にて扣屋敷七ヶ所田島持高三百五十石餘持居申候處四郎左衛門男子ども多く夫々別家とも爲仕候度毎に持高配當仕如今相成候得共不絶相續仕候當村最初は三十五屋敷有之候内何れも退轉或は入替候者共斗に相成候處甚兵衛と申者と私方と只今只兩家斗最初より相承罷在候

て私は先祖之城屋敷に住居仕候當時私屋敷横廿五間餘奥行三十七八間餘惣横堀江筋扣池並柿木四十本餘御座候先祖杉原一黨は菩提寺小松寺に御座候且又當所よりの柳街道と申候は名古屋御城御築之節鳥森村より御城下へ通路摸通の料に先祖四郎左衛門開發仕御城の道且問主四郎左衛門旁取合せてしるの道と其頃はどなへ候由之處只今は柳街道と唱申候 右之通聊相違無御座候間村方古老之者并庄屋中へ御尋被下置候様奉願上候以上文政七年申八月鳥森村頭百姓銀藏同人伴安左衛門とあり此文猶繁多なりしかと要語を取捨して記せりさて此城跡に住へる六軒の内銀藏を除ては源左衛門柳左衛門初瀬久藏角左衛門といひ名字は佐藤小塚高木瀧野杉野といふよし

岩塚城

岩塚驛の内街道の南の方遍慶寺の南に字を城前といふ地あれは此より上つ方なるへけれと傳をうしなひて舊址群にわきまへかたし遍慶寺の境内もしくは其地ならむかなべてあたりよりは地形や、高くてもやと覺しき形勢なり城主は吉田内記守氏入道長英が遠祖歴代のうちなるへし守氏は斯波武衛の一族たりしが武衛家衰微の後長男内記元氏に家督を繼せ盤居して長英と稱し天文元年八月十三日亡ぬかくて元氏は織田信長公に仕て永祿十一年九月十三日勢州大河内の城に戦死す其子吉田九郎左衛門は信雄公に仕へて天正十九年齋願岩塚を領す此時は七社大明神の社の乾の方に先祖傳領の敷地は八畝歩ある屋敷に住へる由この社司吉田氏の家譜に見ゆ又長英が遠祖吉田治郎左衛門重氏同三郎兵衛等が名も應永元年文明元年などの梁牌に残り長英が岩塚の城主たりしことは吉田氏か家記また尾陽雜記にも



見ゆたり  
荒子城

あらかひら民居の西北の隅にてあざ名を大中脇オホナカワキといふ處にあり民居となりて舊址四至定かに見きはめかたけれど北面に堀形今も残りて此あたりの地を古城フキノロといふ也其地今爲陸田と府志にわれは彼書撰述の頃までは畠處なりつらむを今はすべて百姓屋敷となれり舊記に城墟東西三十八間南北二十八間在千邑之西北ともあり城主は前田又左衛門利家其子肥前守利長等なり

東起城

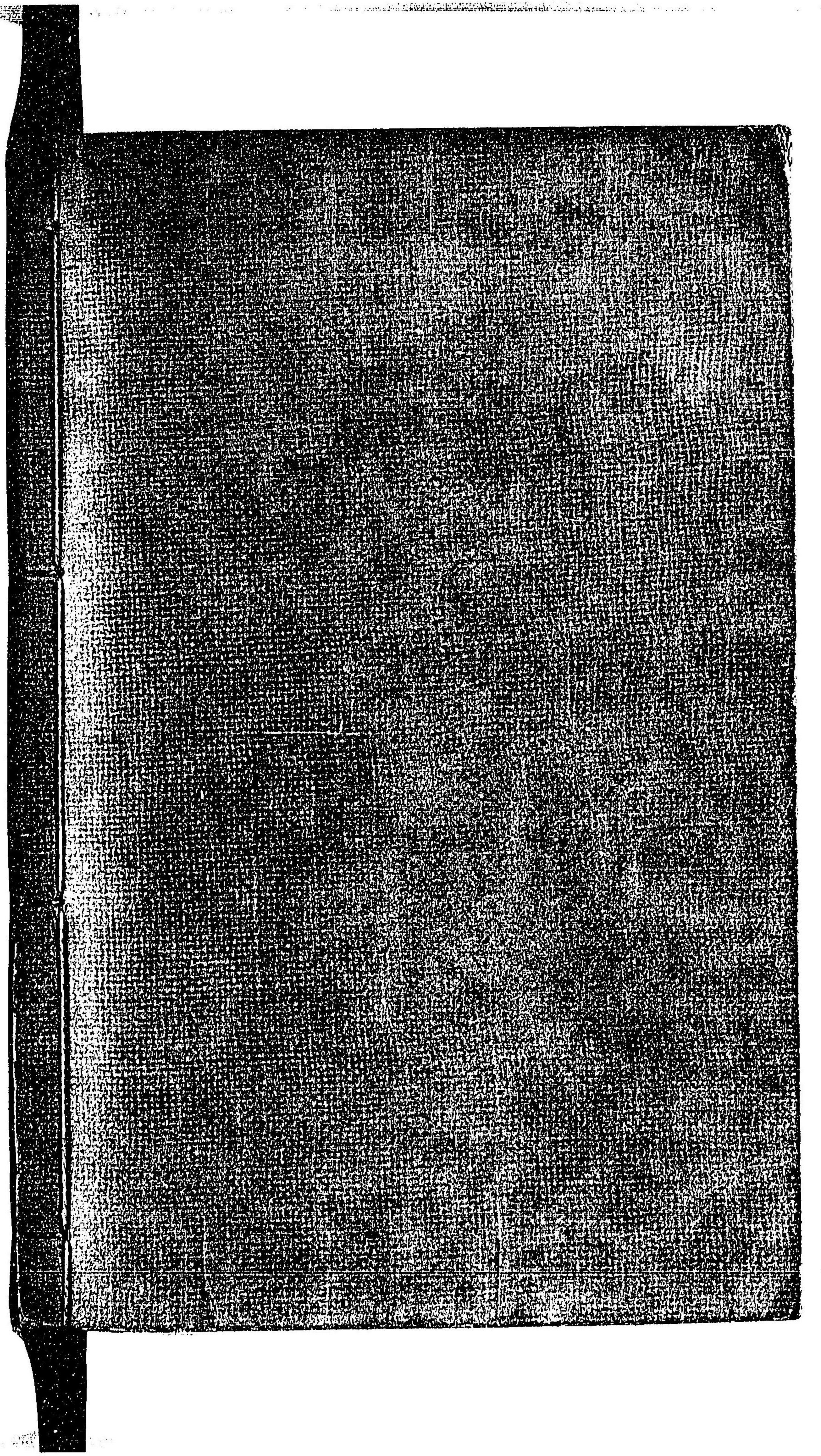
東おこしむら民居の北西の方に屬たる地にて東の方に民家一軒ありてろれより南はみな田となりて四至詳ならねど大概東西六十四間南北七十二間あり城主は前田三郎四郎と府志にいへる如し

下一色城

下いしきむら民家より西の方五條川の川際にて舊址うせて知かたし府志に土人曰前田與十郎居之今爲河而古址悉く矣といへる如し

229  
10  
115







209
10
115

五